平成3年

西之表市文化協会

20周年記念誌

西之表市文化協会

西之表市文化協会

二十周年記念誌

題字は、書道研究「一翠会」　中　島　貞　美 氏
表紙写真　「馬毛島遠望」　撮影　「種子島写友会」　子　島　　勤 氏
撮影場所　上之原こ道橋

西之表市民会館
どんちょう

人形劇団
「ゆびきり」
「三枚のおふだ」より

劇団「熊毛テアトロ」
「絵姿女房」より

軽音楽同好会

「エイトビート」

「種子島マンドリン・
アンサンブル」

藤間流「亜希藤会」

子供舞踊

春日流「春日会」

「茶道吟」

「岳心流詩吟学院」
種子島支部」

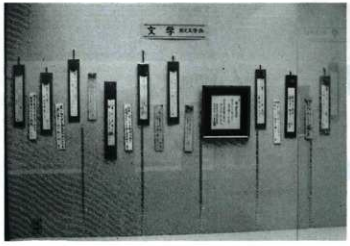
写真展示

「種子島写友会」

華道展示

茶道実演

「表千家流」



短冊展示

「熊毛文学会」

目　　次

ページ

◇グ ラ ビ ア　　写真に見る記録

◇会長あいさつ　　創立２０周年によせて　　中 島 貞 美……9

◇お祝いのことば　　西之表市長　　榎 本　　修……10
西之表市議会議長　　川 脇 安 雄……11
西之表市教育委員会教育長　　鎌 田 一 正……12
鹿児島県文化協会長　　山 根 銀五郎……13

◇西之表市文化協会創立２０周年記念事業要項　……14

◇沿　　革　　協会創立２０年のあゆみ　……17

◇協会加盟団体と役員名簿　……32

規　約　……35

◇西之表市文化協会歴代会長一覧　……38

◇西之表市文化協会歴代役員一覧　……39

◇西之表市文化協会文化功労賞受賞者一覧　……41

◇西之表教育委員会受賞者一覧（文化協会関係のみ）　……42

◇加盟団体とその活動状況
劇団「熊毛テアトロ」　……43
人形劇団「ゆびきり」　……44
軽音楽同好会「エイトビート」　……45
長唄「杵佳会」　……46
西之表市民合唱団「コールわかさ」　……47
あかおぎ民踊研究会　……48
凰扇流「希風会」　……49
綾木流「芙草之会」　……50
藤間流「亜希藤会」　……51

ページ

錦生流「明和会」……52
蘇州流「宗州剣舞会」……53
西之表詩吟同好会……54
チャーチル会……55
書道研究「一翠会」……56
日本習字市役所支部……57
種子島写友会……58
池　坊「羽生社中」……59
池　坊「牧瀬社中」……59
表千家榕城会……60
知足庵流種子島支部……61
熊毛文学会……62

◇特　別　企　画　協会創立時加盟団体代表者座談会「２０年をふりかえって」……63

◇短　　歌　熊毛文学会……76

◇随　　想　「趣味の功徳」　平　山　武　章……78

「提　　言」　西　　金　男……80

◇編　集　後　記　編　集　委　員……82

《ごあいさつ》

創立２０周年に寄せて

西之表市文化協会　会長 中　島　貞　美

西之表市文化協会は、今年10月19日で創立20周年を迎えます。昭和46年６月19日、第１回設立委員会がもたれ、市教育委員会の御尽力をいただきながら、３回の委員会のあと誕生しました。

一年一年、会長を中心に試行錯誤を重ね、理事や会員各位の努力の積み重ねでありました。みんな一生懸命やった一年一年は、アッと言う間に過ぎたのに、連続してこの20年は必ずしも短いとは言えない年月だったのです。その間、規約も文化を愛する人達のために、幾度となく改正を重ね、充実したものにと努力をしてきました。

この20年の間、文化や文化財に対して、市当局、市教育委員会並びに文化財審議会のご理解、ご指導並びにご協力に対し心から厚く御礼を申し上げるとともに、毎年、内容が研究充実した市民文化祭、協会自主事業、協賛事業等に全力投球していただいた、協会員、市民各位に衷心より深く御礼申し上げます。

また、協会創立後、県文化協会、熊毛教育事務所、熊毛地区文化協会連絡協議会の絶大なご協力、ご指導に対しても、改めて厚く御礼申し上げます。

今さら、この場で文化を語る必要もないと思いますが、青少年教育、寿長者教育、生涯教育等の内容として、文化を取り入れない教育は有り得ないと思います。衣食住の文化ばかりでなく、多方面にわたる文化の伝承と探究が必要ではないでしょうか。

地区文化行政研修会でも「人と文化」をテーマに討議をしたところですが、年を追う毎に衰退していくあらゆる文化を、如何にして寿長者から親へ、そして子や孫に伝承（誦）すべきか、機会と掘り起こしの大切さを市民みんなの共有の財産として考えてみてください。みなさんの知恵とご協力を貸してください。

いよいよ20歳を過ぎました。会員のみなさんは、市民の期待に応えるべく芸能及び芸術の研究に全力を出していただき、各団体の活動の充実を図り、西之表市文化協会が、すばらしい未来を見つめながら一人歩きができるようお願い申し上げます。

平成５年には、鉄砲伝来４５０周年を迎えます。その先駆けとして“大航海時代の遙かなる詩「フエスタ・ポルトガル」”の種子島公演の成功を見、感無量です。

新たに心をひきしめ、これからも市民の皆さんと共に、文化の掘り起こしと常におしみない研究と努力を続け、すばらしい西之表市文化協会を創造しようではありませんか。

もうすぐ21世紀、記念すべき成人式を迎えての感謝と、今後への希望とお願いを織りまぜながら、ごあいさつと致します。

《祝　　辞》

創立２０周年を祝う

西之表市長　榎本　　修

貴協会が、創立20周年の記念を迎えましたことに対しまして、心からお祝い申し上げます。

かねてから、本市の文化行政につきましては、多大なるご協力とご支援を賜わり衷心から厚く御礼申し上げます。

黒潮文化の渡来点としての私達の郷土種子島は、古来から大陸文化の玄関口として、また南方文化の中継点として、重要な役割を果たしてきた数々の文化の伝承は、その時代その時代の郷土の大切な財産として代々伝えられ育まれて今日に至っているところですが、今大切に保存されている文化遺産は、取りも直さず、かねてから地道な活動を続けてこられた会員皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

さて、貴協会は設立以来、それぞれの創意と工夫で、あらゆる分野において文化活動を積極的に行なっていることは、誠に喜ばしいことであります。

本市におきましても、来るべき21世紀に備えて、平成５年度に「鉄砲伝来450周年」を迎えますので、これをよい機会にポルトガル国との交流をさらに具体化し、あらゆる面で文化交流を図っていきたいと思っているところであります。

これまで培われた大切な文化を常に前進させ、創造する苦しみの中にこそ育つものであるという認識から、さらに施策の強化を図っていく必要があると考えますので、これまで以上のご協力方をよろしくお願い致します。

最後に、今後とも会員の皆様方のご健康とご多幸を御祈念申し上げまして、お祝いのごあいさつといたします。

《祝　　辞》

創立２０周年を祝う

西之表市議会議長　川　脇　安　男

本年は、西之表市文化協会創立20周年というめでたい節目の年にあたり、ここに文化協会役員諸氏のご努力により、西之表市文化協会の歴史が編纂されますことを、市議会を代表して心から敬意とお祝いを申し上げます。

文化活動は、その地域の活力のバロメーターといわれますが、創立当初10数団体で始められた当協会が、今日38団体 588名という大きな団体に成長しているようであります。

わたしたちは、郷土種子島の歴史を紐解くとき、鉄砲の伝来をはじめとして数々の優れた文化の歴史があり、自信をもって「文化発祥の地」などとお国自慢いたしますが、その背景には、その文化を地道に支えた人々の長い生活の歴史があったのであり、一朝一夕にして歴史が造られたわけでないことを痛感するものであります。

本協会もまさしく、そのような20年という歴史を経て今日を迎えられたのであり、自己のためにはもちろん、他人の成長のために献身的に努力された方々に改めて、厚く敬意を表す次第であります。

市の恒例の文化祭は、老若男女一同に会して、数日をかけ、舞踊あり音楽発表あり、さらには、華道をはじめあらゆる展示がなされ、菊花香る中に家族共々の一日を過ごすことが、どんなにか翌日からの生活に英気を与えていることか計りしれません。

文化協会会員の皆さんが、一丸となって演じるこの市民文化祭は、まさしく本市文化活動の粋の発表の場であります。

さらに、市内一円を巡回する移動市民文化祭も、県下に誇る活動とお聞きしており、すべて貴協会の力の賜と心からそのご尽力に対して感謝を申し上げます。

年々、市民生活は多様化し、ニーズも一層高まってきており、これまで以上に文化行政の役割は増大することでありましょう。

西之表市議会としても、これらの文化活動がますます活発化することが、本市の生産活動および市民生活の向上を図るうえでの源泉であることを理解し、その振興をかねがね念じている次第であります。

今後一層、行政執行部と一体となって、皆さんの活動を支援して参りたいと思います。

末筆ながら、この記念誌発刊を契機として、本市の文化協会がますます活発化し、更に市民生活のよりどころとなる協会に発展されんことを祈念し、記念誌発刊のお祝いのごあいさつといたします。

《祝　　辞》

創立２０周年を祝う

西之表市教育長 鎌　田　一　正

昭和46年10月に創立された本市の文化協会が、ここに20周年を迎えられ記念事業を行なわれますことに対し、衷心よりお慶びを申し上げます。

一口に「20年」という言葉を耳にしますと、反射的に「成人」というイメージが湧いてまいります。この間、生みの苦しみがあり、幼児期、少年期、青年期的成長の歩みを経て、今や立派な成人として、将来への夢と希望を抱き、さらなる充実・発展を期しておられることと拝察申し上げます。

このように思ってみますと、それぞれの時期にご尽力なさった関係者の方々に、尊敬の念を表さざるを得ません。

種子島は、古く独特の文化をもつことで有名な郷里です。その中でも、西之表市は先進性をもった住民集団だと理解しております。

戦後経済の急成長の陰でとり残されてきた「心の豊かさ」の問題が、現在どこでも誰からも口にされる昨今であります。しかし、文化協会のみなさん方は、この間も人間のもつ本質的価値を見失うことなく、自らの力で、また力を合わせて、豊かに生きるための文化活動を続けてこられたのです。

「文化」ということの定義を、「心うきうき楽しいこと」だと言っておられる学者もいます。そういう観点から考えますと、人間誰もが願い求めているものは、文化だと言えそうです。

このようなことから、真に豊かで充実した人生を送るために、文化活動はますます活発化していくことでございましょう。

加盟団体も増え、会員も大世帯に成長されました西之表市文化協会の、これからの着実な御発展を祈念いたし、お祝いのごあいさつといたします。

《祝　　辞》

２０周年おめでとう

平和な暮らし、これこそ文化

鹿児島県文化協会長 山　根　銀五郎

会長の中島先生をはじめとして、文化協会のみなさん!!、創立20周年おめでとうございます。

文化協会は平和のシンボルです。平和であればこそ文化運動が行なわれ、また文化運動があればこそ戦争も起きず、平和な毎日が暮らせるのですね。文化とはお互いの気持ちを大事にしあって、無事な毎日を送ることです。一日をおえて床につくとき、一日の平和を神に感謝するのだとキリスト教徒の方に聞きましたが、人間らしい生活を今日も送ることができたことはこの上ない幸せなことなのですね。

私たちは日ごろ生活のために一生懸命働き、他人のことなど考えませんが、ときあってかその人が奥ゆかしい気持ちを見せてくれると、人の情けのありがたさを感じさせられます。日常生活はお互いに荒々しいものですが、絵とか詩とか音楽にふれると、その人のゆかしさが感じられます。その意味で芸術は大事なものなのですね。そして、それをお互いに育てて行こうというのが文化協会なのだと思います。その意味で文化は、私たちの生活になくてはならぬものなのでしょう。

私は青年時代、シューベルトの歌の生き生きとした麗しさに心を奪われ、ベートーヴェンの力強い生き方に感激しました。それが今でも続いている訳です。ともに貧しく生活しながら、それにくじけずに麗しく生き抜き、そして他人を励ましてきました。これが文化であり、芸術の尊さだと思っています。音楽会や展覧会、劇場はその舞台であり、それ自体が目標ではありません。真の芸術は心を打ち、心のこもった文化は人を育てます。偽物や金儲け的のものはだめです。外面の華やかさにまどわされずに、ほんとうのものを育てるのが私たちの仕事です。まずしい舞台でも、小さな絵でも、俳句の一句でも心がこもっていれば文化的価値は高いと思います。

私など年寄りは、えてして若い人のやることに難くせつけたがります。若い人が未熟なのは当然でしょう。未熟であればこそ、これからの世の中に必要なものに成熟して行くのです。若い人たちのやることを育んでやりたいものです。もちろん、批判もし叱りもするが、ほめもするし励ましてもやる。老若一体となって私たちのよい社会を作っていく、お互いに思いやりのある、助け合いをして住みよい社会、生きがいのある人生を築いていく、老いも若きもですね。

西之表市文化協会の創立20周年をもう一度お祝い申し上げ、皆様の活動を祈ります。

西之表市文化協会創立２０周年記念事業要項

１．目　　的　　西之表市文化協会は、本市の郷土文化の振興を図るとともに、文化団体並びに同好会相互の連絡と親睦を深めることを目的として、昭和46年10月19日に創立された。以来、地域に根ざした文化活動の創造と展開をめざして活動を続けてきた。

当初13団体であった加盟団体も38団体に増えるなど、着実にその歩みを進めつつある。

ここに、創立20周年を迎えるにあたり、一つの歴史の節目として祝賀し、併せて市民各位の理解と協力を求め、共に手を携えて、地域文化の発展振興に寄与せんとするものである。

２．主　　催　　西之表市文化協会

３．後　　援　　西　之　表　市
西之表市教育委員会

４．日　　時　　記念式典　　日時　平成３年11月３日（日）
午後２時
場所　西之表市民会館　ホール

記念祝賀会　　日時　平成３年11月３日（日）
午後５時
場所　種子島観光ホテル

６．事業大要　　1.記念式典　　（文化功労者表彰、芸能発表、祝宴）
2.記念公演　　“遙かなる大航海の詩”
「フェスタ・ポルトガル in TANEGASHIMA」
3.２０周年記念誌発行
4.第２０回市民文化祭　（一般・子供芸能発表、展示発表）

７．参加者　　西之表市文化協会加盟団体会員、一般市民

記念式典要項

市民会館ホール　午後２時

式次第

１．開式のことば　　西之表市文化協会　副会長　橋川節子

２．会長あいさつ　　西之表市文化協会　会長　中島貞美

３．文化功労者表彰　　団体の部
1.劇団「熊毛テアトロ」
2.軽音楽同好会「エイトビート」
3.あかおぎ民踊研究会
4.蘇州流「宗州剣舞会」
5.西之表詩吟同好会
6.チャーチル会
7.書道研究「一翠会」
8.熊毛文学会

４．来賓祝辞　　西之表市長　榎本修
西之表市教育委員会　教育長　鎌田一正
鹿児島県文化協会　会長　山根銀五郎

５．閉式のことば　　西之表市文化協会　副会長　橋川節子

（祝賀会）　　別会場において

西之表市文化協会 創立２０周年記念

第２０回市民文化祭

◎展示発表　※種子島開発総合センター

1）絵画・写真・文学

期　　間　　平成３年11月１日（金）～11月30日（土）

2）書　道

期　　間　　平成３年11月５日（火）～11月30日（土）

3）華　道

期　　間　　平成３年11月１日（金）～11月４日（月）

参加団体　　西之表市文化協会加盟団体

◎実演発表　※種子島開発総合センター　２階　会議室

1）茶道実演

日　　時　　平成３年11月３日（日）　茶道「表千家榕城会」

平成３年11月４日（月）　煎茶道「知足庵流種子島支部」

午前10時～午後３時

◎芸能発表　※西之表市民会館　ホール

日　　時

平成３年11月２日（土）　午後７時～　一般の部

平成３年11月３日（日）　午後１時30分～　記念式典・一般の部

平成３年11月４日（月）　午後２時～　子供の部

平成３年11月４日（月）　午後７時　一般の部

平成３年12月１日（日）　午後１時30分～　児童劇

参加団体　　西之表市文化協会加盟団体

ほか各種団体

西之表市文化協会の沿革

西之表市文化協会は、市内で活動中であった「熊毛テアトロ」、「小型映画友の会」、「音楽同好会」、「熊毛文学会」ほか数団体の代表者が母体となり、西之表市教育委員会社会教育課の指導により、市内各文化団体に呼びかけ、昭和46年10月19日、参加数１３団体、会員数１８９名で、西之表市文化協会として正式に発足しました。

設立当初、民主的な運営を原則として会則を定め、常任理事として社会教育課のご指導を仰ぎながら、昭和53年まで各種事業を行ってまいりましたが、昭和54年の会則改正により常任理事を廃止し、西之表市文化協会は行政から独立し、事務局を設置しました。

会の運営は総会、年４回の理事会・企画員会を中心として、会則の改廃、予算・決算、各種事業の計画等について審議されます。

各加盟団体は、芸能、芸術、生活文化、文学・文化史の４部門に分かれ、各部門より数名の代表が理事となっています。また、各団体においては、それぞれの計画に基づき、自主的に研修会、発表会、展示会等を実施し、活動もますます活発になってまいりました。

さらに、協会自体の事業や西之表市教育委員会との共催又は後援の研修会、文化講演会、劇団公演、音楽会等も、相互協力により実施し、会長を中心に会員全員で取り組み、地域文化の向上、振興に努力しています。

１３団体で発足した西之表市文化協会も、現在３８団体５８８名となり、地道ながらも着実に協会の運営活動を行ない、平成３年、２０周年を迎えました。

西之表市文化協会のあゆみ

年号	主な行事と活動内容
昭和46年	
9／14	文化協会設立準備委員会
10／19	「西之表市文化協会」設立　役員選出、会則制定 加盟団体13団体・会員数189名
	西之表市文化協会設立時の加盟団体 および文化協会育成についての請願団体

	種類	団体名	代表者名	会員数
1	演劇	劇団「熊毛テアトロ」	小村金男	17
2	音楽	西之表音楽同好会	樋口兼一	7
3		音楽同好会「ザ・クロウズ」	羽生和正	5
4	舞踊	あかおぎ舞踊研究会	中川あい子	21
5	剣舞	西之表市剣舞会	榎本宗秋	30
6	詩吟	西之表吟舞同好会	平山武紐	14
7	絵画	チャーチル会	八板辰夫	5
8	書道	西之表書道会「一翠会」	中島貞美	16
9	映画	小型映画友の会	徳永幸彦	11
10	写真	種子島写真同好会	鎌倉正守	25
11		赤尾木写真クラブ	和田　実	10
12	文学	文芸たねがしま	佐山計典	5
13		熊毛文学会	井元正流	23
	計	13団体		189名

年号	主な行事と活動内容
昭和47年	
2／19～20	西之表市民会館「落成記念総合文化祭」
5／	通常総会
6／24	文化協会育成について市に請願　参加団体数13団体
10／5	補助金申請、市民会館借用を無料にする為の条令変更請願 市民文化祭日程等打ち合わせ
11／4	理事会・文化祭発表について打ち合わせ
11／26	第1回市民文化祭（芸能発表）昼夜
11／26～30	第1回市民文化祭（展示発表）
12／2	第1回市民文化祭（演劇発表）劇団「熊毛テアトロ」　喜劇「タルチュフ」

年号	主な行事と活動内容
昭和48年	
2／	熊毛地区社会教育大会　劇団「熊毛テアトロ」受賞
4／27	通常総会　役員改選 新規加盟　1.英会種子島支部　2.千鳥会 加盟団体数15団体
9／24	新規加盟　3.園芸趣味の会　加盟団体数16団体
10／5	理事会　文化祭日程等打ち合わせ
11／22～25	市制施行15周年　第2回総合文化祭
11／24・25	県合同演劇祭（劇団「熊毛テアトロ」　『こわれがめ』） （劇団「創人」　『黒の悲劇』）
昭和49年	
4／	通常総会　役員改選 新規加盟　1.長唄「杵佳会」　7.池坊「羽生社中」 2.レ・ヴィオレッテ　8.池坊「浜田社中」 3.日本書道連盟八板支部　9.小原流「浦口社中」 4.草月流西之表支部　10.茶道「表千家」 5.池坊「牧瀬社中」　11.あざみ会 6.池坊「八汐社中」　12.種子島を語る会 脱退団体　1.園芸趣味の会　2.文芸たねがしま 加盟団体数26団体 510名
5／	長唄「杵佳会」発表会
8／18	羽生和博ギター演奏会　後援
9／28	臨時総会
11／5	理事会　文化祭打ち合わせ
11／30～12／6	第3回市民文化祭（芸能発表11／30～12／1） （展示発表11／30～12／6）
昭和50年	
4／	通常総会
11／	市民巡回劇場　国上公演「雪女風土記」
11／1～9	第4回市民文化祭（芸能　11／1,3昼・夜） （展示　11／1～9）
11／4～9	第1回熊毛地区芸術祭（西之表市）

年号	主な行事と活動内容
昭和51年	
2／	市民巡回劇場　安納公演「雪女風土記」
5／	通常総会　役員改選
	新規加盟　1.うたう仲間「からいも」　5.日本習字市役所支部
	2.藤間流「藤恵会」　6.日本習字榕城支部
	3.英　流「聖桐会」　7.芙蓉会
	4.ザ・クォーターズ　8.あかね会
	名称変更　1.ナポレオン・グループ→軽音楽同好会「エイトビート」
	2.日本書道連盟八板支部→日本習字小牧支部
	脱退団体　1.小原流「浦口社中」
	加盟団体数33団体
11／ 3～ 7	第５回市民文化祭（展示発表　11／ 3～ 7）
	（芸能発表　11／ 6～ 7）
11／12～15	第２回熊毛地区芸術祭（上屋久町）
11／27	市民巡回劇場　安城公演「草の生命」
昭和52年	
2／23	青少年劇場「カレドニア号出帆す」
3／ 6	巡回劇場「からいも&エイトビート」　古田公演（第１回移動音楽祭）
4／22	通常総会　会則改正、役員改選
	新規加盟　1.種子島太鼓　2.紫苑会
	脱退団体　1.英会種子島支部　2.種子島写真同好会
	加盟団体数33団体
6／16	熊毛地区芸術祭第１回打ち合わせ
6／26	第２回移動音楽祭　立山公演
9／21	熊毛地区芸術祭第２回打ち合わせ
9／29	臨時総会
10／16	木村雅信&羽生和博「ピアノ&ギター」ジョイント・コンサート主催
10／16～23	第６回市民文化祭
11／12・13	第３回熊毛地区芸術祭（中種子町）
11／18	「ボニー・ジャックス」コンサート
11／19	第１回移動市民文化祭　伊関公演
11／20	第２回移動市民文化祭　鴻峰公演

年号	主な行事と活動内容
昭和53年	
2／	熊毛地区社会教育大会　「あかおぎ舞踊研究会」受賞
5／ 8	通常総会　役員改選
	新規加盟　1.人形劇団「ゆびきり」　3.知足庵流種子島支部
	2.種子島ギター・クラブ　4.リボンフラワー同好会
	加盟団体数37団体
6／ 2	理事会
6／	社会教育課　移動用照明調光器・音響装置購入
9／22	臨時総会
10／ 1	市制施行２０周年記念式典　アトラクション協力
11／ 1～ 7	市制施行２０周年・第７回市民文化祭
	文化功労者表彰「西之表詩吟同好会」　平　山　武　緝　氏
	（芸能発表11／ 3～ 5　市民会館）
	（展示発表11／ 1～ 7　市民会館ほか市内３会場）
11／11	第３回移動市民文化祭　現和公演
11／12	第４回熊毛地区芸術祭（屋久町）
昭和54年	
2／	熊毛地区社会教育大会　「種子島を語る会」受賞
3／ 5	古田・春の音楽祭　「エイトビート&からいも」
5／28	通常総会　役員改選、規約改正
	新規加盟　1.日本吟道学園岳心流詩吟学院種子島支部
	2.吾妻流同好会「千寿会」　4.種子島奇術クラブ
	3.草月流種子島支部「和光会」5.三喜流「八千代会」
	名称変更　1.紫苑会→英　流「紫鶴峰会」
	脱退団体　1.西之表音楽同好会　2.ザ・クォーターズ
	加盟団体数40団体
8／26	オーケストラ巡回公演
9／21	臨時総会　役員改選、規約改正（常任理事廃止）
10／17	熊毛地区芸術祭第２回打ち合わせ（南種子町）
11／ 1～ 4	第８回市民文化祭
	文化功労者表彰「小型映画友の会」　徳　永　幸　彦　氏
11／11・12	第５回熊毛地区芸術祭（南種子町）
11／17	第４回移動市民文化祭　国上公演
11／	劇団「熊毛テアトロ」　県芸術文化奨励賞受賞

年号	主な行事と活動内容
昭和55年	
2／16	アンサンブル・ケーナ公演
5／17	第3回移動音楽祭　鴻峰公演
5／24	うたう仲間「からいも」発表会
6／7	通常総会　役員改選、規約改正
	名称変更　1.草月流種子島支部桜木社中→草月流「桜木社中」
	草月流「桜木社中」→草月流「初桜会」
	2.あかおぎ舞踊研究会→あかおぎ民踊研究会
	脱退団体　1.日本習字小牧支部
	加盟団体数39団体
7／24	文化協会事務所設置についての陳情
	熊毛地区芸術祭屋久島会場参加費用についての陳情
8／5・6	県文化活動指導者研修会
8／10	木村雅信ピアノ・リサイタル
9／19	臨時総会
	新規加盟　1.西之表女声合唱団「コールわかさ」
	2.西之表油絵グループ　4.菊寿会
	3.西之表硯友会
	加盟団体数43団体
10／17	「沖縄歌舞団」公演
11／1～3	第9回市民文化祭
	文化功労者表彰「あかおぎ民踊研究会」中川あい子氏
	「西之表市剣舞会」　榎本宗秋氏
11／8～10	第6回熊毛地区芸術祭（上屋久町）
	軽音楽同好会、あかおぎ民踊研究会、
	岳心流詩吟学院種子島支部の3団体参加
11／10	軽音楽同好会「エイトビート」屋久町　公演
11／15	第5回移動市民文化祭　安城公演
昭和56年	
4／22	通常総会　役員改選、規約改正（会計新設）
5／3	第4回移動音楽祭　国上公演
5／4	長唄「杵佳会」発表会
5／29	劇団「手織座」公演　「檜山節考」
6／6	軽音楽同好会「エイトビート」　定期演奏会

年号	主な行事と活動内容
昭和56年	
7／～8／	人形劇団「ゆびきり」　夏休み公演
8／1	軽音楽同好会「エイトビート」　浦田海水浴場公演
8／20	羽生和博・田上義二ギター・ジョイント・コンサート　後援
9／11	理事会
9／18	臨時総会
	新規加盟　1.永勝会種子島支部　2.黒潮会
	加盟団体数45団体
10／31～11／3	第10回市民文化祭（展示　11／1～11／3）
	（芸能　10／31～11／2）
11／14・15	第7回熊毛地区芸術祭（西之表市）
11／28	第6回移動市民文化祭　安納公演
12／12	レ・ヴィオレッテ発表会
昭和57年	
2／	西之表市社会教育大会　柳田桃太郎氏受賞
2／20	元会長「徳永幸彦」氏　死去
2／27	種子島ギター・クラブ発表会
6／5	第5回移動音楽祭　立山公演
6／5	うたう仲間「からいも」寺之門公演
6／19	通常総会　役員改選、規約改正
	脱退団体　1.あざみ会　3.種子島奇術クラブ
	2.千鳥会
	加盟団体数42団体
8／28	羽生和博&池永忠司ギター・コンサート　後援
9／11，14	理事会・臨時総会
	新規加盟　1.春日流「豊受会」　3.扇蝶の会
	2.綾木流「あやぎ会」　4.池坊「せせらぎ会」
	名称変更　1.西之表油絵グループ→油絵グループ「パレット」
	加盟団体数46団体
11／6・7	第11回市民文化祭（展示・芸能　11／6～7）
	（音楽祭　11／14）
11／27	第7回移動市民文化祭　古田公演
12／12	レ・ヴィオレッテ発表会
12／18	「コールわかさ」発表会

年号	主な行事と活動内容
昭和58年	
1／12～16	「田楽座」公演（現和・国上・西之表）
2／12	種子島ギター・クラブ「マンドリン・コンサート」
5／21	第６回移動音楽祭　安城公演
6／ 7	通常総会　役員改選
	名称変更　1.扇蝶の会　→　風扇流「希風会」
	2.西之表剣舞同好会　→　蘇州流「宗州剣舞会」
	3.種子島ギター・クラブ→種子島マンドリン・アンサンブル
	4.三喜流「八千代会」　→　三喜流「藤美会」
	新規加盟　1.藤間流「亜希藤会」　2.西之表大正琴川上会
	加盟団体数48団体
7／ 5	熊毛地区芸術祭第１回打ち合わせ（中種子町）
8／ 5・ 6	県文化担当指導者研修会
9／19	臨時総会
	新規加盟　1.焼き物友の会　加盟団体数49団体
9／28	熊毛地区芸術祭第２回打ち合わせ
11／ 3～29	第１２回市民文化祭
	（展示　11／ 3～11／29　種子島開発総合センター）
	（舞台　11／ 4～11／ 6　西之表市民会館　ホール）
11／13・14	第９回熊毛地区芸術祭（中種子町）
11／26	第８回移動市民文化祭　住吉公演
12／ 5	民謡「秋の祭典」　県教委主催
昭和59年	
2／10	種子島マンドリン・アンサンブル発表会
2／25	西之表市民合唱団「コールわかさ」発表会
5／19	第７回移動音楽祭　伊関公演
6／19	通常総会　役員改選
	（59年度より臨時総会を廃止し、文化祭実行委員会に変更）
	名称変更　1.池　坊「八汐社中」→池　坊「本村社中」
	2.池　坊「浜田社中」→池　坊「上妻社中」
	脱退団体　1.小型映画友の会　2.赤尾木写真クラブ
	加盟団体数47団体
8／ 7・ 8	県文化担当指導者研修会
9／13	第１回理事会

年号	主な行事と活動内容
昭和59年	
11／ 1～ 4	第１３回市民文化祭（展示　11／ 1～11／ 4）
	（芸能　11／ 2～11／ 4）
11／	劇団「熊毛テアトロ」文部大臣賞　受賞
11／10・11	第１０回熊毛地区芸術祭（上屋久町）
	軽音楽同好会「エイトビート」　参加
11／17	第９回移動市民文化祭　立山公演
12／ 2	軽音楽同好会「エイトビート」発表会
12／22	「岡　林　信　康」コンサート　後援
昭和60年	
2／	西之表市社会教育大会表彰　軽音楽同好会「エイトビート」
3／ 1	種子島マンドリン・アンサンブル発表会
5／11	第８回移動音楽祭　現和公演
6／16	軽音楽同好会「エイトビート」１０周年記念コンサート
7／ 5	熊毛地区芸術祭第１回打ち合わせ（南種子町）
7／11	通常総会　役員改選
	新規加盟　1.わかさ民踊会　2.錦生流「はまゆう会」
	脱退団体　1.日本習字榕城支部　3.吾妻流同好会「千寿会」
	2.リボンフラワー同好会　4.種子島太鼓
	加盟団体数45団体
7／18	「河　島　英　五」コンサート　後援
8／25	サマー・フェスティバル　後援
10／ 3	熊毛地区芸術祭第２回打ち合わせ（南種子町）
10／20	羽生和博ギター・コンサート　後援
11／ 2～ 4	第１４回市民文化祭（芸能・展示）
11／ 9～10	第１１回熊毛地区芸術祭（南種子町）
11／17	第１０回移動市民文化祭　国上公演
昭和61年	
2／ 2	第１４回全日本文化集会（鹿児島）
2／	熊毛地区社会教育大会　軽音楽同好会「エイトビート」受賞
2／	西之表市社会教育大会　人形劇団「ゆびきり」受賞
3／15	種子島マンドリン・アンサンブル発表会
3／22	西之表市民合唱団「コールわかさ」発表会

年号	主な行事と活動内容
昭和61年	
5／17	第９回移動音楽祭　古田公演
5／24	民音公演「津軽三味線と民謡の世界」
7／8・9	熊毛地区芸術祭第１回打ち合わせ（屋久町）
7／10	通常総会　役員改選、会則改正 （副会長１名と会計を減、事務局長新設、企画員新設） 名称変更　1.錦生流「はまゆう会」→錦生流「ちどり会」 2.春日流「黒潮会」　→　春日流「春日会」 3.草月流「初桜会」　→　草月流「土屋社中」 脱退団体　1.栄勝会種子島支部　4.油絵グループ「パレット」 2.西之表硯友会　5.あかね会 3.焼き物友の会　6.草月流「和光会」 加盟団体数39団体
7／13	サマー・フェスティバル　後援
7／20	人形劇団「ゆびきり」　１０周年記念公演
7／26	「木村雅信作品による楽しいコンサート」
11／1～3	第１５回市民文化祭（芸能・展示）
11／8・9	第１２回熊毛地区芸術祭（屋久町） 軽音楽同好会「エイトビート」，綾木流「芙草之会」参加
11／22	第１１回移動市民文化祭　安納公演
12／13	レ・ヴィオレッテ　発表会
昭和62年	
2／15	熊毛地区社会教育大会　人形劇団「ゆびきり」受賞
2／25	熊毛地区文化懇談会打ち合わせ
3／14	熊毛地区文化懇談会（西之表市　種子島開発総合センター）
3／21	種子島アンドリン・アンサンブル発表会
4／23	通常総会　役員改選 名称変更　1.綾木流「あやぎ会」→　綾木流「芙草之会」 2.池　坊「せせらぎ会」→池　坊「上薗社中」 新規加盟　1.英　流「桐絵峰会」 脱退団体　1.池　坊「上妻社中」 加盟団体数39団体
5／16	第１０回移動音楽祭　安城公演
6／13	民音公演「爆笑バラエティ」

年号	主な行事と活動内容
昭和62年	
7／7	熊毛地区芸術祭第１回打ち合わせ（西之表）
7／11	「三　浦　安　浩」テノール独唱会　主催
7／18	西之表市民合唱団「コールわかさ」発表会
7／25・26	県文化担当指導者研修会
10／2	熊毛地区芸術祭第２回打ち合わせ
10／17	軽音楽同好会　県芸術祭「音楽祭」参加
10／24	「辻　久子」　ヴァイオリン演奏会　後援
11／1～30	第１６回市民文化祭 （展示　11／1～11／30　種子島開発総合センター） （舞台　11／1～11／3　西之表市民会館　ホール）
11／7～8	第１３回熊毛地区芸術祭（西之表市）
11／22	劇団「熊毛テアトロ」公演
11／28	第１２回移動市民文化祭　鴻峰公演
12／13	レ・ヴィオレッテ　発表会
昭和63年	
1／12	熊毛地区文化協会連絡協議会　設立委員会（中種子町）
2／	熊毛地区社会教育大会　「種子島写友会」受賞
4／22	通常総会　役員改選、規約改正 （役員任期を２年とする） 新規加盟　1.「睦　会」　4.仙田流「珠緒会」 2.錦生流「明和会」　5.「菊友会」 3.種子島写友会 名称変更　1.菊友会→西之表市菊寿会 脱退団体　1.藤間流「藤恵会」　3.菊寿会 2.芙蓉会　4.西之表大正琴川上会 加盟団体数40団体
5／14	第１１回移動音楽祭　住吉公演
23	第１回理事・企画員会
5／30	民音公演「原田直之と津軽三味線の響宴」
7／1	熊毛地区文化協会連絡協議会総会（中種子町） 第１回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（中種子町）
7／3	軽音楽同好会「エイトビート」　発表会
8／8・9	文化担当指導者研修会　軽音楽同好会「パネル討議」参加

年号	主な行事と活動内容
昭和63年	
9／2	サンライフふれあい広場打ち合わせ
6，10	第２回理事会・第２回企画員会
10／6	第２回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（中種子町）
10／8	第３回企画員会
11／1～6	第１７回市民文化祭・サンライフ福祉文化祭
	（展示　11／1～11／30　種子島開発総合センター）
	（展示　11／1～11／6　市民会館　全館〈福祉関係・社会教育関係〉）
	（舞台　11／2,3,5　　市民会館　ホール）
11／4	軽音楽同好会「エイトビート」　県芸術文化奨励賞　受賞
11／12・13	第１４回熊毛地区芸術祭（中種子町）
11／20	劇団「熊毛テアトロ」公演
11／23	ふるさとファミリー劇場　後援
11／26	第１３回移動市民文化祭　　伊関公演
12／10	レ・ヴィオレッテ　発表会
平成１年	
2／5	西之表市生涯学習市民フェア
3／4	西之表市民合唱団「コールわかさ」発表会
3／23	第３回理事会，第４回企画員会
4／	元会長　「平　山　武　緝」氏　死去
5／2，9	第４回理事会，監　査
5／20	第１２回移動音楽祭　国上公演
5／23	通常総会
	名称変更　　1.錦生流「ちどり会」→錦生流「豊千会」
	脱退団体　　1.西之表市菊寿会
	加盟団体数39団体
6／10	「東　民　正　利」　ギターコンサート　後援
6／15	「第１回学校コンサート」　種子島高等学校　　軽音楽同好会主催
6／	綾木流「芙草之会」発表会
6／18	県文化協会総会　（鹿児島）
7／3	熊毛地区文化協会連絡協議会総会（屋久町）
	第１回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（屋久町）
8／11	第１回企画員会
17	「楽しい歌の花束」公演　市教育委員会主催

年号	主な行事と活動内容
平成１年	
9／1，19	第１回・第２回理事会
10／3	第２回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（屋久町）
10／14・15	「堺まつり」視察　（大阪・堺市）　事務局長参加
11／3～5	第１８回市民文化祭
	（展示　11／1～11／30　種子島開発総合センター）
	（舞台　11／3～11／5　西之表市民会館　ホール）
11／11・12	第１５回熊毛地区芸術祭　（屋久町）
	レ・ヴィオレッテ参加・写友会視察
11／18	劇団「熊毛テアトロ」公演　　市民劇場「黒い花束」
11／25	第１４回移動市民文化祭　　立山公演
26	西之表市民合唱団「コールわかさ」発表会
12／9	レ・ヴィオレッテ　発表会
平成２年	
3／3	西之表市民フェア
5／8,12	第３回理事会，監　査
5／20	第１３回移動音楽祭　　安納公演
6／4	通常総会　　役員改選、会費改定
	（「２０周年記念」準備委員会設立）
	（団体会費制より個人会費制に改定、平成３年度より実施）
	新規加盟　　1.「クラウド」　　2.錦生流「豊秋会」
	脱退団体　　1.わかさ民踊会　　2.仙田流「珠緒会」
	加盟団体数39団体
18	「第２回学校コンサート」　種子島実業高等学校
18	県文化協会総会　（鹿児島）
7／1	熊毛地区文化協会連絡協議会総会（南種子町）
	第１回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（南種子町）
6	第１回理事会（企画員決定）
8／9～11	指導者研修会・会長会　（鹿児島）
18	KTS室内オーケストラ演奏会　　市教育委員会主催
9／6	第２回理事会・第１回企画員会
18	第１回２０周年準備委員会
22	２０周年記念事業打ち合わせ・民音担当者（鹿児島）
10／2	第２回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（南種子町）

年号	主な行事と活動内容
平成２年	
10／ 6	第２回２０周年準備委員会
11／ 1～30	第１９回市民文化祭
	（展示　11／ 1～11／30　種子島開発総合センター）
	（舞台　11／ 2～11／ 4　西之表市民会館　ホール）
11／10・11	第１６回熊毛地区芸術祭　（南種子町）
17	「岡　村　和　夫」文化講演会　　市教育委員会主催
22	第３回理事会
24	第１５回移動市民文化祭　　安城公演
12／ 8	第１９回ヴィオレッテ発表会
12／23	人形劇団「ゆびきり」　クリスマス公演
平成３年	
2／12	第３回２０周年準備委員会
17	西之表市生涯学習市民フェア
27	第２回企画員会
3／ 3	第８回コールわかさ発表会
3／10	第４回理事会
4／17，25	第３回企画員会・第５回理事会
5／13	通常総会
	（「２０周年記念事業」実施要項（案）提出）
	（「２０周年記念」準備委員会を「２０周年記念」実行委員会とする）
28	文化行政研修会　（南種子町）
6／ 6，9	第１回・第２回企画員会（記念誌編集委員会）
12	第３回企画員会（記念誌編集委員会）
14	希望舞台「天までとどけ」公演　　市連合青年団主催
16	県文化協会総会
19，23	第４回・第５回企画員会（記念誌編集委員会）
22	綾木流「芙草之会」舞踊発表会
26	「２０周年記念誌」特別座談会
7／ 3	熊毛地区文化協会連絡協議会（屋久町）
	第１回熊毛地区芸術祭打ち合わせ（屋久町）
7／14，23	第６回・第７回企画員会（記念誌編集委員会）
27・28	第２２回鉄砲祭り

年号	主な行事と活動内容
平成３年	
7／28	創立２０周年記念事業　鉄砲祭り共催事業
	「フェスタ・ポルトガル」in Tanegashima
8／ 3，9	第８回・第９回企画員会（記念誌編集委員会）
11	村おこし「ふれあい市場」　軽音楽同好会「エイトビート」協力
20	第１０回企画員会（記念誌編集委員会）
24	風扇流「希風会」舞踊発表会
27	第１１回企画員会（記念誌編集委員会）
9／ 6	第１回２０周年記念実行委員会（理事・企画員会）
11	第１２回企画員会（記念誌編集委員会）
14	第１３回企画員会（記念誌編集委員会）
18	第１４回企画員会（記念誌編集最終委員会）
19	記念誌印刷発注

西之表市文化協会加盟団体名簿

平成３年10月現在

※芸能部門

番号	種類	団体名称	代表者名	住所	電話
1	演劇	劇団「熊毛テアトロ」	河東　瞭	野首	3-0614
		事務局	樋口兼治	野首	3-4377
2		人形劇団「ゆびきり」	上妻茂美	納曽	3-0755
3	音楽	軽音楽同好会「エイトビート」	羽生和正	西町	2-1338
4		種子島マンドリン・アンサンブル	中村健次	松畠	3-0371
5		「クラウド」	行船睦男	洲之崎	3-1471
6		長唄「杵佳会」	神村加奈子	中目 豊山	2-0267
7		「睦　会」	原田保教	鴨女町124	2-1191
8		うたう仲間「からいも」	尾形公雄	洲之崎	3-4501
9		レ・ヴィオレッテ	池田公栄	鴨女町154	2-0185
10		西之表市民合唱団「コールわかさ」	千田由美子	中目	2-0946
1	舞踊	あかおぎ民踊研究会	中川あい子	東町35	3-0778
2		英　流「紫鵬峰会」	冨貴田タヅ子	鴨女町	2-1496
3		英　流「聖桐会」	原田エミ	洲之崎	2-1666
4		三喜流「藤美会」	川畑美智子	下西 瀧泊	3-0372
5		春日流「春日会」	日高ミエ子	美浜町	3-1840
6		春日流「豊受会」	日高順子	安納224	5-1175
7		凰扇流「希風会」	小倉つよみ	鴨女町	2-0134
8		綾木流「芙草之会」	原田　一	美浜町	3-0959
9		藤間流「亜希藤会」	神村加奈子	中目 豊山	2-0267
10		英　流「桐絵峰会」	中村民子	中目	3-1451
11		錦生流「明和会」	高重孝子	中西	3-4145
12		春日流「芳寛会」	山口チエ子	下西 川迎	3-0382
13	剣舞	蘇州流「宗州剣舞会」	村松秀高	納曽	3-0713

※芸能部門

番号	種類	団体名称	代表者名	住所	電話
14	詩吟	西之表詩吟同好会	遠藤吉助	住吉1026	3-3745
		事務局	上妻陽二郎	中目清水アパート5	3-3260
15		岳心流詩吟学院種子島支部	川上里枝	下西 池野	3-2589

※芸術部門

番号	種類	団体名称	代表者名	住所	番話
1	絵画	チャーチル会	尾形之善	野首	3-0070
2	書道	書道研究「一翠会」	中島貞美	中目	3-0120
3		日本習字市役所支部	日高興一郎	中目	3-0844
4	写真	種子島写友会	子島　勤	納曽	3-2809

※生活文化部門

番号	種類	団体名称	代表者名	住所	電話
1	華道	草月流「土屋社中」	土屋ヒロ子	中目	2-0569
2		池　坊「牧瀬社中」	牧瀬くみ	美浜町	2-1085
3		池　坊「本村社中」	橋川節子	中野	2-1487
4		池　坊「羽生社中」	羽生自月子	東町106	2-1023
5		池　坊「上薗則子社中」	上薗則子	中目	2-1717
6	茶道	表千家榕城会	阿世知キワ	野首	2-1494
7		知足庵流種子島支部	羽嶋シャチ	西町	2-0193

※文学文化史部門

番号	種類	団体名称	代表者名	住所	電話
1	文学	熊毛文学会	河東　瞭	野首	3-0614
2	歴史民俗	種子島を語る会	平山武章	中目	2-1069

西之表市文化協会役員名簿

平成３年４月１日現在

１．会長・副会長・事務局長（３名）

役職名	氏　　名	住所	電話	所属団体名
会　長	中島貞美	中目	3-0120	書道研究「一翠会」
副会長	橋川節子	中野	2-1487	池　坊「本村社中」
事務局長	羽生和正	西町	2-1338	軽音楽同好会「エイトビート」

２．理　事（７名）

役職名	氏　　名	住所	電話	所属団体名
理　事	千田由美子	中目	2-0946	西之表市民合唱団「コールわかさ」
〃	神村加奈子	中目	2-0267	藤間流「亜希藤会」
〃	高重孝子	中西	3-4145	錦生流「明和会」
〃	子島　勤	納曽	3-2809	種子島写友会
〃	羽生自月子	東町	2-1023	池　坊「羽生社中」
〃	阿世知キワ	野首	2-1494	表千家榕城会
〃	河東　瞭	野首	3-0614	熊毛文学会

３．監　事（２名）

役職名	氏　　名	住所	電話	所属団体名
監　事	原田保教	鴨女町	2-1191	「睦　会」
〃	牧瀬くみ	美浜町	2-1085	池　坊「牧瀬社中」

４．顧　問（１名）

役職名	氏　　名	住所	電話	所属団体名
顧　問	平山武章	中目	2-1069	種子島を語る会

５．企画員（６名）

役職名	氏　　名	住所	電話	所属団体名
企画員	樋口兼治	野首	3-4377	劇団「熊毛テアトロ」
〃	上妻茂美	納曽	3-0755	人形劇団「ゆびきり」
〃	永山博章	松畠	2-0901	軽音楽同好会「エイトビート」
〃	中村健次	松畠	3-0371	種子島マンドリン・アンサンブル
〃	榎本尚子	西町	0-2234	レ・ヴィオレッテ
〃	尾形之善	野首	3-0070	チャーチル会

西之表市文化協会会則

（名称及び事務所）

第１条　本会は、西之表市文化協会と称する。

第２条　本会の事務所を事務局長宅に置く。

（目的及び事業）

第３条　本会は、郷土文化の振興をはかるとともに、文化団体並びに同好会相互の連絡と親睦を深めることを目的とする。

第４条　本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

(1) 文化に関する調査研究
(2) 各種発表会及び展示会等の開催
(3) 文化祭の開催
(4) 文化向上の啓蒙指導
(5) 文化財の保護
(6) その他、本会の目的達成に必要な事業

（組　　織）

第５条　本会は、第３条の目的に賛同する市内文化団体、並びに同好会をもって組織する。

第６条　本会に、次の部門を置く。

(1) 芸能部門
(2) 芸術部門
(3) 生活文化部門
(4) 文学文化史部門

（役員及び任務）

第７条　本会に、次の役員を置く。

任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(1) 会　長　１名　　(2) 副会長　１名
(3) 事務局長　１名　　(4) 理　事　若干名
(5) 監　事　２名　　(6) 企画員　若干名
(7) 顧　問　若干名

第８条　役員の選出

(1) 会長、副会長、事務局長及び監事は、総会で選出する。

(2) 理事は、部門ごとに選出する。

(3) 企画員は、理事会で選出し、会長が委嘱する。

第９条　役員の任務

(1) 会長は、本会を代表し、会務を統括し、各会議の議長となる。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行する。

(3) 事務局長は、本会の会計・事務にあたる。また、企画員会を招集することができる。

(4) 理事は、本会の運営にあたる。

(5) 監事は、本会の監査にあたる。

(6) 企画員は、会長の命を受け、本会の事務及び企画にあたる。

(会　　議)

第10条　本会に、次の会議を置く。

(1) 総　会

総会は、年１回会長がこれを招集する。

但し、会長が必要と認めたときは、臨時に招集することができる。

本会の運営方針、事業計画の審議、予算の承認、役員の選出、規約の改廃などを行なう。

(2) 理 事 会

総会につぐ決議機関であり、本会の運営について協議する。

(3) 企画員会

本会の、企画及び事務にあたる。

(4) 役 員 会

本会事業の執行について協議する。

第11条　すべての会議は、構成員の二分の一以上の出席をもって成立し、出席者の三分の二以上の賛同を必要とする。

(会　　計)

第12条　本会の経費は、次のものをもって、これにあてる。

(1) 会　　費　　(2) 事 業 収 入

(3) 寄付及び補助金　　(4) その他の収入

第13条　本会の会計年度は、毎年４月１日から翌年３月31日までとする。

(雑　　則)

第14条　本規約の施行について、必要な細則は理事会で、これを決める。

(付　　則)

第15条　加 入 脱 退

(1) 本会への加入脱退は、理事会の承認を必要とする。

(2) 本会に、１年以上連絡がない場合は、自然脱退したものとみなす。

(3) 団体名称、代表者、連絡先の変更があった場合は、すみやかに本会に届けるものとする。

第16条　帳　簿　等

本会に、次の帳簿を置く。

(1) 会　議　録　　(2) 会　計　簿

(3) 役 員 名 簿　　(4) その他必要な書類

第17条　この規約は、昭和63年４月22日から施行する。

【改 正 経 過】

昭和46年10月19日	制　定
昭和52年４月１日	一部改正
昭和54年５月28日	一部改正
昭和54年９月21日	一部改正
昭和55年６月７日	一部改正
昭和56年４月22日	一部改正
昭和57年６月17日	一部改正
昭和61年７月10日	一部改正
昭和63年４月22日	一部改正

西之表市文化協会歴代会長一覧

初代会長　平山武緝
期　　間　昭和46年10月～
　　昭和48年3月
所属団体　西之表吟舞同好会

二代会長　徳永幸彦
期　　間　昭和48年4月～
　　昭和54年4月
所属団体　小型映画友の会

三代会長　小村金男
期　　間　昭和54年5月～
　　昭和54年8月
所属団体　劇団「熊毛テアトロ」

四代会長　平山武章
期　　間　昭和54年9月～
　　平成2年6月
所属団体　種子島を語る会

西之表市文化協会歴代役員名簿－1　(昭和46年～昭和57年)

役職	昭和46・47年度	昭和48年度	昭和49年度	昭和50年度
会長	平山武緝	徳永幸彦	徳永幸彦	徳永幸彦
副会長	榎本庸	小村金男	小村金男	小村金男
〃	樋口兼一	和田実	和田実	和田実
書記会計	鎌田和好	(書記会計は	―――	―――
事務局	―――	副会長が兼務)	樋口兼一	樋口兼一
常任理事	今別府望	今別府望	児玉喬	富重円
理事	加盟団体代表者	加盟団体代表者	加盟団体代表者	加盟団体代表者
監事	小村金男	中島貞美	中島貞美	中島貞美
〃	鎌倉正守	―――	―――	―――

役職	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度	昭和54年度前期
会長	徳永幸彦	徳永幸彦	徳永幸彦	小村金男
副会長	小村金男	小村金男	小村金男	尾形公雄
〃 会計	和田実	和田実	和田実	橋川節子
書記	鮫島安豊	鮫島安豊	鎌田和好	―――
常任理事	富重円	富重円	山内孝男	(廃止)
理事	加監団体代表者	部門別代表6名	部門別代表6名	部門別代表6名
監事	平山武緝	平山武緝	尾形公雄	羽生和正
〃	榎本宗秋	榎本宗秋	橋川節子	冨貴田タヅ子
顧問	―――	―――	平山武緝	平山武緝
〃	―――	―――	―――	徳永幸彦

役職	昭和54年度後期	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
会長	平山武章	平山武章	平山武章	平山武章
副会長	尾形公雄	尾形公雄	尾形公雄	中島貞美
〃 会計	橋川節子	羽生和正	羽生和正	羽生和正
会計	―――	―――	檜原たか	檜原たか
理事	部門別代表6名	部門別代表6名	部門別代表6名	部門別代表7名
監事	冨貴田タヅ子	冨貴田タヅ子	冨貴田タヅ子	上妻茂美
〃	和田実	和田実	和田実	尾形公雄
顧問	平山武緝	平山武緝	平山武緝	平山武緝
〃	徳永幸彦	徳永幸彦	徳永幸彦	―――

西之表市文化協会歴代役員名簿－２　（昭和58年～平成３年）

役　職	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度
会　長	平山武章	平山武章	平山武章	平山武章
副会長	中島貞美	中島貞美	中島貞美	中島貞美
〃	羽生和正	羽生和正	羽生和正	―――
事務局長	―――	―――	―――	羽生和正
会　計	檜原たか	檜原たか	檜原たか	―――
理　事	部門別代表７名	部門別代表７名	部門別代表７名	部門別代表７名
監　事	上妻茂美	上妻茂美	上妻和子	檜原たか
〃	池田公栄	尾形之善	中村健次	樋口兼治
顧　問	平山武緝	平山武緝	平山武緝	平山武緝
企画員	―――	―――	―――	会員中より４名

役　職	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成２・３年度
会　長	平山武章	平山武章	平山武章	中島貞美
副会長	中島貞美	中島貞美	中島貞美	橋川節子
事務局長	羽生和正	羽生和正	羽生和正	羽生和正
理　事	部門別代表７名	部門別代表７名	部門別代表７名	部門別代表７名
監　事	上妻茂美	神村加奈子	神村加奈子	原田保教
〃	池田公栄	土屋ヒロ子	土屋ヒロ子	牧瀬くみ
顧　問	平山武緝	平山武緝	―――	平山武章
企画員	会員中より７名	会員中より７名	会員中より７名	会員中より６名

西之表市文化協会文化功労賞受賞者

（個人または団体名）

年度	受賞者氏名または団体名	文化祭	備　考
昭和53	平山武緝	第７回 市制20周年	「西之表吟舞同好会」代表者 西之表市文化協会初代会長
54	徳永幸彦	第８回	「小型映画友の会」代表者 西之表市文化協会二代会長
55	中川あい子 榎本宗秋	第９回	あかおぎ民踊研究会 蘇州流「宗州剣舞会」
56－57	なし	10、11	
58	人形劇団「ゆびきり」	第12回	代表者　上妻茂美
59－61	なし	13－15	
62	檜原たか	第16回	「芙蓉会」代表者
63	平山武緝 長唄「杵佳会」	第17回 市制30周年	「西之表詩吟同好会」代表者 代表者　神村加奈子
平成1	河東　瞭 レ・ヴィオレッテ 池坊「牧瀬社中」	第18回	「熊毛文学会」代表者 劇団「熊毛テアトロ」代表者 代表者　榎本尚子 代表者　牧瀬くみ
平成2	平山武章 池坊「羽生社中」 茶道「表千家裕城会」	第19回	「種子島を語る会」代表者 西之表市文化協会四代会長 代表者　羽生自月子 代表者　鏑　タツノ
平成3	劇団「熊毛テアトロ」 軽音楽同好会「エイトビート」 あかおぎ民踊研究会 西之表詩吟同好会 蘇州流「宗州剣舞会」 チャーチル会 書道研究「一翠会」 熊毛文学会	第20回 創立20周年記念 特別表彰	代表者　河東　瞭 〃　羽生和正 〃　中川あい子 〃　遠藤吉助 〃　村松秀高 〃　尾形之善 〃　中島貞美 〃　河東　瞭

国・県及び市 受賞者一覧

(西之表市文化協会加盟団体または加盟団体会員のみ)

年　度	受賞者氏名または団体名	備　　考
昭和４７	劇団「熊毛テアトロ」	熊毛地区社会教育大会
５２	あかおぎ民踊研究会	熊毛地区社会教育大会
５３	種子島を語る会	熊毛地区社会教育大会
５４	劇団「熊毛テアトロ」	鹿児島県芸術文化奨励賞
５６	柳　田　桃太郎	西之表市社会教育大会
５９	劇団「熊毛テアトロ」	文部大臣賞
５９	軽音楽同好会「エイトビート」	西之表市社会教育大会
５９	平　山　武　教	西之表市社会教育大会
６０	軽音楽同好会「エイトビート」	熊毛地区社会教育大会
６０	平　山　武　教	熊毛地区社会教育大会
６０	人形劇団「ゆびきり」	西之表市社会教育大会
６１	平　山　武　章	熊毛地区社会教育大会
６１	人形劇団「ゆびきり」	熊毛地区社会教育大会
６３	種子島写友会	熊毛地区社会教育大会
６３	軽音楽同好会「エイトビート」	鹿児島県芸術文化奨励賞
平成　２	平　山　武　章	西之表市民フェア
２	和　田　　実	西之表市民フェア

熊毛テアトロのあゆみ

熊毛テアトロ　河　東　　瞭

太平洋戦争で焼野原となった市街地に、ぽつぽつとバラックが建ち始めた昭和21年、衣はもとより、食糧難とともに文化に飢えていた市民、とりわけ海外引揚者等が小山内薫の「息子」を上演したのをきっかけに「熊毛演劇研究会」が発足した。その後、25年まで「湖の娘・堕胎・ニシン揚・花咲く港・メリーちゃん・夕鶴・青雲亭」等を上演して来たが、都会の戦後復興も進み上京者が相つぎ、27年頃は解散同様となっていた。28年残留者１人に新会員が加わり「はまゆう会」を結成し、本源寺で本読み等を行っていたが、上演には至らなかった。31年「はまゆう会」を発展的に解消し、「演劇研究会熊毛テアトロ」発足。「結婚の申し込み・村の保守党・寒鴨・ルリュ爺さんの遺言・川上観音・人を喰った話」の本公演と共に、高等学校及び地方巡回公演を実施した。34年名称を「熊毛テアトロ」と改め、「乞食の歌・長女・野木村快挙録・次郎案山子・赤い陣羽織・彦市ばなし」等の公演を重ねる。43年念願の馬毛島公演「彦市ばなし」が実現した。また、44年から46年まで「三年寝太郎・消えたバークシャー・鉈」公演。47年市民会館落成に「獅子・タルチュフ」を上演、この時「熊毛教育事務所長及び熊毛地区社会教育振興会長表彰」受賞。48年県合同演劇祭（西之表市）で鹿児島市の「創人」と合同公演、「こわれがめ」を上演。49年より「こども劇場」を実施する(以下、こども劇場の演目は略す)。50年「雪女風土記」、及び移動文化祭（国上）参加。51年上屋久町で県移動劇場「カレドニア号出帆す（こども劇）」公演。同年創作劇「草の生命」上演、及び地区芸術祭（南種子町）参加。52年本公演「息子」、及び県芸術祭演劇祭（県文化センター）参加。53年市制20周年記念公演で創作劇「若狭姫」上演。54年「綾瀬川」公演。同年10月県芸術文化奨励賞（演劇部門）受賞。55年「夜の来訪者」、56年「アンネの日記」、57年「寒鴨」、及び九州移動演劇祭（中種子町）で福岡市の劇団「道化」と合同公演。58年「かがみ草紙」公演。59年文部大臣賞受賞、創作劇「貝」公演。

60年「鈴のファルス」、61年「牛女房」、62年「やりこめられた亭主」、63年「患者」。平成元年テアトロ30周年記念、脚色劇「黒い花束」公演、及び下西小学校演劇鑑賞教室上演。２年「こども劇場」取り止めとなり、代りに下西小学校演劇鑑賞教室で上演、同年「絵姿女房」公演。

以上のような歩みであるが、みんなの劇団、郷土のテアトロとして「名作をわかり易く、おもしろく、楽しく」をモットーに、ふるさとを基盤に活動を展開している。今後の抱負、課題としては従来の名作のほかに郷土の創作劇や、こども劇場、巡回公演の充実を図って行きたい。

なお、名称「熊毛テアトロ」はいつの間にやら「劇団、熊毛テアトロ」となっていることを付記して置きたい。

子供達に夢と感動を!!

人形劇団「ゆびきり」　上　妻　茂　美

私達人形劇団「ゆびきり」は、種子島の子供達に夢と感動を伝えようと、昭和52年６月に設立しました。

発足当時は、保母４名、自営業者１名、公務員１名の６名で、その上人形劇の経験者は２名しかおらず、何から取り組めばよいのか暗中模索の毎日でした。「種子島にしかないものをしたらどうか？」というアドバイスを受け、まず、種子島に伝わる昔話を紙芝居にして伝えようと今はなき鴨女保育園を借用して、畳一畳位の広さの紙芝居をかきました。例会の会場に恵まれず、夜絵の具にぬれた紙を朝早く片付けに行ったのも、今ではおもいでのひとつです。

昭和53年４月、市文化協会に加入することになり､「指きりげんまん、うそついたら…」の約束事のとおり「又、いつか会おうね」の願いをこめ、サークル名を「ゆびきり」としました。

初公演は、瀧泊公民館を会場に、ぬいぐるみ人形劇（高さ50cm前後）「大きなかぶら」大型紙芝居「へひり嫁」をし、地域の子供や大人の方々にも大変よろこばれ、次回公演に夢を膨らませました。そして、次第に団員数も増え、大字各地域を公演して回りました。出し物は自分達の人形劇上演に加え、子供達にも軍手人形を楽しんでもらいました。

市民文化祭への参加は、昭和55年、マスク劇「長ぐつをはいたネコ」でした。全て手作りの舞台で、面づくりも初体験、演じるのもはじめてで、一年一年が試行錯誤の連続でした。初回は発砲スチロール、和紙等と材料費に出費が嵩んだものですが、現在では、ダンボールの空き箱や古新聞をうまく利用して、大いに舞台を盛り上げています。

昭和57年、昭和61年には、中種子町にも足を伸ばし、マスク劇を演じることが出来ました。なかでも、浜田ひろすけ作の「泣いた赤オニ」の主人公赤鬼と青鬼は、８年たった今でも子供達の人気者で、公民館活動や社会教育大会にまで登場しました。

ここ数年は団員数が減り、目的達成もままなりませんが、これからも一人でも多くの子供達に、夢と感動を伝えつづけたいと思っています。

「エイトビート」のあゆみ

軽音楽同好会　「エイトビート」

月日のたつのは誠に早いもので、西之表市文化協会が発足して２０年になるとは！。私たち軽音楽同好会「エイトビート」は、協会発足と同時に加入しましたが、当時の名称は、音楽同好会「ザ・クロウズ」でした。加入当時我々のグループが協会の中で、最も若かったと記憶しています。その音楽同好会「ザ・クロウズ」も、昭和51年１月、現在の名称に変更してから、もう16年目になります。

協会加入から４年ほどは、これといった活動はなかったのですが､「エイトビート」の結成後、各種の事業に参加協力するとともに、自主活動も計画して実施してきました。

20年の活動の中で、結成当時からするとメンバーの交替は何人もありました。また、演奏形態にしても当初、トランペット，テナー・サックス等管楽器を含め10数名で演奏していましたが、メンバーの交替，脱退等で現在のようなエレキ・ギター中心の編成でジャズ，フュージョン等の演奏に変わってきました。

軽音楽同好会「エイトビート」の自主活動としては、昭和51年度より毎年各大字を巡回して「移動音楽祭」を開催し、13回を数えました。

また、数年前より、楽器の演奏だけでなく、我々の持っている器材を有効利用できるような活動をしようとのことで、舞台の照明・音響についても活動するようになりました。このグループは、「エイトビート」の会員を中心に、数名の協力者を入れ、「西之表総合舞台」として、市民文化祭・鉄砲祭り・移動市民文化祭等の行事をはじめ、他団体の発表会の折り、裏方として協力をしています。

我々のこのような活動も年々認められ、昭和61・62年度に市・地区の表彰を受け、昭和63年度には、「県芸術文化奨励賞」を受賞し、身の引き締まる思いです。

県の表彰を契機に、初の試みとして平成元年・２年には、種子島高校・種子島実業高校に出向き、「学校コンサート」を実施、好評を得ました。

今日まで、このような活動を継続できたことは、単に我々が“音楽好きであった！”だけでなく、関係機関の方々のご指導・ご協力があったからと思います。

また、会員の家族の方々の絶大な協力があったことを忘れることは出来ません。

最後に、この文化協会が今後さらに発展し、県下でも有数の協会として成長していかれますよう祈念してやみません。

Eight Beat Concert

活動の中で思う事

長唄「杵佳会」　神　村　加奈子

私達杵佳会はその長い歴史の中で、微力乍ら地域の文化活動の中に仲間入りさせて頂いて、２０年近くになります事をとても光栄に思っております。長唄を種子島にささやかな願いのもとに、長唄を愛する人達が２・３人の小さな組織で発足致しました。

お陰様で昭和49年に長唄の演奏会もやりました。長唄はむつかしく楽しくないイメージの中で、一人でも理解して下さる方があればと思っております。又一人でも多くの方が理解してくださる事を念じ乍ら頑張って参りました。

年一回のおさらい会十数曲をそれぞれ与えられ、思う存分弾かせ、唄わせて貰い、未熟ながらもとても楽しいものです。夜は反省会など和気あいあいとした意義あるものです。

何か目的を持って集中した勉強をさせて貰う、これ又大きいものがあります。古典が敬遠されがちな現代のながれの中で、古い文化として西之表市の中に、末永く小さくても明るい灯がともし続けて行けたらいいなぁと思います。

又７月の祇園祭り女山車へ参加させて貰い、市民の皆様に喜んで貰っていますが、市民会館での三味線、太鼓、鐘の音に近所の方に「あの音を聞いたら夏祭りが来たと感じる」といって貰い嬉しく思っています。そして11月の文化祭には音楽部門として出演させて貰っていますが、長唄を愛して下さる方々も増え、大変喜ばしい事だと喜んでおります。もっともっと長唄を愛す方達が集まって下さり、大演奏会でも出来たらなぁと思っています。大勢の皆様に聞いて頂く為には、もっともっと芸を磨いていかなくてはと思っています。学校があり、家庭があり、仕事がある人々の集まりで思う存分練習出来ませんが、師と弟子が心を一つにして、明るく楽しい杵佳会の和を大事にしながら、前向きに頑張って行きたいと思っております。

十年のあゆみ

西之表市民合唱団「コールわかさ」　千　田　由美子

私達「コールわかさ」は、発足以来10年を迎え、去る３月３日10周年記念第８回定期演奏会を、県民第九テノールソリストの米澤傑さんをお迎えし盛会の中に終えることが出来ました。これも偏えに市民の皆様方を始め市文化協会又、各関係機関の御指導と御支援の賜であり感謝の気持ちで一杯です。

本会の発足のきっかけは、県主催で毎年秋に行なわれる音楽祭に、ぜひ西之表市から混声合唱で出演してほしいとの要請があり、当時の女声コーラスグループに新しく男性有志をつのり、56年６月に結成しました。初舞台は11月県文化センターで、感激もひとしおでした。

当時の指揮者は、上西孝雄先生、ピアノ伴奏は、榎本尚子先生、曲は「秋を呼ぶ歌・草切哀歌」の２曲にしぼり練習が続きました。発表が近づくにつれ曲も練り上げられ、40人の美しいハーモニーが今も脳裏に焼き付いています。

上鹿前日は台風が吹き荒れ出演があやぶまれましたが、一夜明けると台風一過の秋晴れに恵まれ、その舞台も好評の内に終わり皆でその感激をわかちあいました。

その次の年には、第１回定期演奏会を開催し、現在まで８回の演奏会をすることができました。その間「コール中種子」「コールサンダンカ」との交流、市文化祭出演、木村雅信作品演奏会出演、鹿児島作曲者協会発表会で「種子島３曲」（種子島の子供達の詩に斉藤正治先生が曲をおつけになったもの）を初演、西之表市制30周年記念式典に市民の歌初演、昨年は県合唱祭に16名で参加、大好評を得て大喜び、今年も参加しました。

発足以来６人のよき指導者に恵まれ、現在団員は22名と少なくなりましたが、こうして続けてこられたのは、骨身をおしまず御指導下さった先生方のお陰だと感謝しております。今後の課題は、会員数を増やしたい事です。

趣味を同じくする者同志の集まりの中から、又更なる物を求めて頑張っておりますので、皆様方の御協力を心からお願いいたします。

種子島の民踊と共に

あかおぎ民踊研究会　中　川　あい子

あかおぎ民踊研究会は、昭和45年10月に設立し、文化協会には協会創立と同時に加入させていただき、20年の歳月を共に歩いて参りました。

私達は少なくなった後継者をたずね、地域にうもれている民踊の手解きを受けたり、また会員で民謡歌謡の創作にも努め、紹介普及に力を入れております。

文化協会の行事はもちろんの事、市の要請にこたえて、地方で行なわれるふるさと物産展に於いて、種子島民踊を披露し島のＰＲにも努めております。

また、時折施設を訪問し入園者には懐かしい唄踊りを共に歌ったり踊ったりして、大変喜んでいただいております。

現在の会員数は７名ですが、これからも郷土民踊保存のために頑張っていきたいと思っております。

《受賞歴》

昭和53年２月	熊毛地区社会教育振興会長賞
昭和54年６月	西之表市長並びに西之表市観光協会長賞
昭和55年11月	西之表市文化協会文化功労者受賞

凰扇流希風会のあゆみ

凰扇流「希風会」　小　倉　ツヨミ

私達凰扇流希風会は、昭和58年10月に結成致しました。文化協会に入会してまだ日が浅いですが、西之表市の文化向上の為、微力ながらお役に立ちたいと思っているところです。

私達は会の誕生と共に「和」を基本に会員相互の親睦を深め、心豊かな人間性を育む事を前提に毎月１回（土・日・月の３日間）古典舞踊、民謡、歌謡曲と幅広く、家元「凰扇弘旭」先生の御指導を仰いでおり、懇切な御指導のお陰で会員数も年々増えて参っております。

また恒例の「舞初め」「ゆかた会」などを契機に会員家族との親睦をはかり、やすらぎの場と家族の理解を戴いております。

また、地域の様々な行事にも会員一同ボランティア精神を忘れず発揮し積極的に参加しております。

お陰さまで平成２年11月15日に永年にわたる老人慰問等ボランティア活動による表彰を受けました。この栄光を忘れず少しでも社会の為に役立ちたいと思っています。

日本舞踊の文化遺産を大切にこれからも芸をみがき、皆さんの心を打つよう稽古に励み、会員の輪を広げ文化向上の為、会員一丸となり頑張りたいと思います。

文化協会創立２０周年を祝して

綾木流「芙草之会」　綾　木　芙草之

いよいよ秋もたけなわ、菊の香りもいっそうかぐわしい季節に、西之表市文化協会創立20周年記念を祝し、記念誌が発行される事をお慶び申し上げます。

社会環境の変化に伴い、「日々の生活に潤いや生きがいを」といった心の豊かさを求める傾向が強まっております。

このような中で、西之表市文化協会も地方文化の伝統を守り、四季の華々しい自然の中で、語り受け継がれている伝統芸能が、これからも大事に伝承されていくように、芙草之会も精進し、協力致したいと思います。

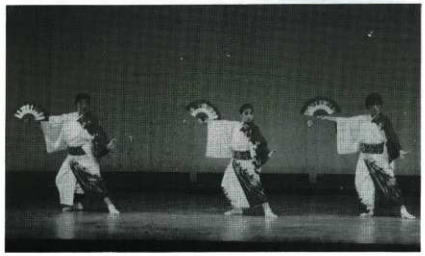
早いもので、芙草之会が種子島支部を昭和58年に開設致しましてから、８年の月日が過ぎました。

その間私ども芙草之会も、市の各行事に参加させていただきましたことを、一同うれしく思っております。

また、去る６月22日に「第２回舞踊会」を開催することが出来ました事も、地域の皆様の御協力の賜と感謝しております。

これからも、微力ながら西之表市の文化協会発展のために、門下生一同がんばっていく所存でございます。

今後共、より一層のご指導を賜わりますよう会員一同心よりお願い申し上げます。



文化活動に灯す小さな灯

藤間流「亜希藤会」　神　村　加奈子

私達の愛する文化発祥の地、種子島にも文化活動が活発に行なわれております。私共、亜希藤会も杵佳会の名のもとで長唄と一緒に活動して参りましたが、５年前、藤間流亜希藤会でスタートしました。

藤間流の古い流派の中で古典のイメージの脱却も少なからず行なわれ、市民の皆様に親しまれる藤間流の会として活動しております。

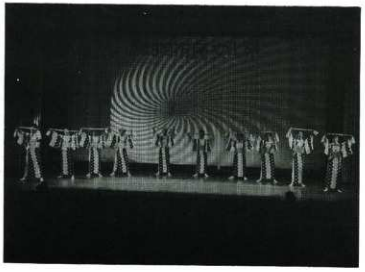
年中行事の催しとして、おさらい会、祇園祭の女山車の参加、文化祭となっておりますが、将来は大舞台を夢見ております。昨年は老人福祉センターでお年寄りの方達を招待致しましたが、もっと沢山の方達に来て頂けるよう頑張りたいものです。盛り沢山のプログラムで、各自一人一曲以上、矢張り緊張して踊ります。

会員は３才から70才までバラエティに富み、楽しみや厳しさを体で受けとめ、修業の厳しさを学び、趣味を共にする者同志の出会いの喜びを感じながら稽古しています。

７月には祇園祭など、市のイベント等に参加させてもらっている事に感謝致しております。また、年一度の市民会館での発表の場の文化祭は、師匠共々全員が集まれる場であり、それぞれが一番楽しく苦しい稽古の場であると思いますが、大きな苦しみが喜びとなり友愛の場でもあります。

この一つ一つの催しが、趣味を共にする者同志の生きがいだと思います。そして雨の日も足を運んで下さる皆の心が、舞台に立つ者の心のふれあいの場だと思います。

そして、この西之表市に文化の灯がもっともっと広がり、文化活動によって広がる人と人とのふれあいの和が、市民全体へ浸透して行ったらどれだけ偉大なものかと思います。また、私達も趣味を同じにすることの重大さ、心のゆとり、心のふれあい、楽しさ、それによる和を大切にして行きたいものです。



舞踊を通して考えたこと

錦生流「明和会」 高 重 孝 子

数多い流派が独立を主張する舞踊の世界で私達の小さな会も生まれました。極めて庶民的な芸能として親しまれ、多くの人々に幅広い門戸を開いているのは御承知の通りです。

私達も同様、子育ての時間から開放され、これから人生の後半にさしかかろうとする時、楽しむ自分の為の時間を何にあてるべきかと迷っていた折も折、優雅な舞い姿に天女を見たのかもしれません。すっかり虜になり類が類を呼んで集まりました。でもまだ日も浅く未熟からの脱出の途上にあります。年齢的にも身体的にもハンディを持ち、厳しく言えば慣れ、甘えがマンネリを生む素地もないではありません。

でもそれを上回る共通の認識は、舞は生という根源への意欲であり、音曲や詩は青春の回帰へといざなってくれる関係でもあります。勿論まだ文化活動などという次元の意識は毛頭なく、ただ己れを磨きひたすら自分自身を発見しようとするのです。

しかし、挫折感を何度も味わうのです。何にしても、道を極める事は容易ではなく、ましてや芸の道は奥が深く、稽古を積めば積むほど道程は果てしなく遠いのです。だからこそやり甲斐があり、挑戦する価値もあるという前向きの姿勢は、少々のつらさも克服し、たえず前進しようとするひたむきさにつながります。

そうして生まれ出た作品は、どういうわけか堂々と観客の前に登場する事を強く望むのです。そしていくつもの賞讃の言葉を欲しがります。その観客も賞める代償に、幽玄の境地にあそび、しばし現実を忘れさせてくれる事を望みます。こうして演じる側と見る側の関係は成立しているのだろうと考えます。

ところで地域文化活動の主なものに夏の鉄砲まつりと、秋の文化祭があります。地域に根ざす行事に参加することは、私どもの活動の中のメインであり又、晴れの場でもあります。当然これに照準を合わせた年間計画があり、その達成を最大の目標にしているのです。特に文化祭は一年間の作品の集大成を演じるとなると、観客の鑑賞に耐えうるものをと腐心するのは当然でしょうし、他との競演も大変関心が高いのです。

普段は中々横のつながりである各団体との交流はありませんが、唯一の交流の場が文化祭と、鉄砲まつりであり、それを司っているのが、市とタイアップした文化協会の存在です。今年は記念すべき20周年を迎えることが出来ましたのも、協会を献身的に支え護っている方々の、陰の力の大きいことに感謝せずにはいられません。ほんとに多くの人達とかかわり助けられて、生きていく図式が見えてきました。

私達の剣舞会

蘇州流「宗州剣舞会」 村 松 秀 高

昭和28年平山武緝氏を会長に「吟舞同好会」の方々が活動されておりました。この同好会に榎本宗州氏参加、この同好会が現在も市文化協会の中の「詩吟同好会」として存続しておるものです。

昭和41年に至り、榎本宗州氏が「吟舞同好会」から「舞」だけを切り離して、「西之表剣舞会」として発足しました。それが現在私達の「宗州剣舞会」の始りとなったのです。その当時、榕城幼稚園々長羽生勝露氏が、園児40名を剣舞会に加入させ、指導を宗州氏に委ねられたのを機会に幼年部が出来ました。

46年頃には、若い層にも注目されるようになり、加入者10名を迎え、青年部が結成される運びとなりました。その後は年を追う毎に加入者も増え特に若い女性も多くみられました。15年程前からは、創始者の宗州氏が体調をくずされましたので、顧問として体力の続く限り会の繁栄のために尽くされました。

特に子供が大好きで、土・日曜は自宅に寝泊りをさせ、起居を共にしてその指導にあたられ、又楽しんでおられました。そのような事情で一般の指導は村松秀高を中心に、毎週木曜日の夜を練習日と定めております。

活動内容は、市文化協会の行なう、市文化祭、地区文化祭、移動文化祭等には全て参加、又市の行事鉄砲祭りには、5才の豆剣士から、70才の長生（オセ）剣士まで総員参加、他に会独自で或いは会員個人で、各校区、各町内会、各種催しに依頼があれば参加し、充実した活動を続けております。悩みは若い層の会員の減少が目立ってきた事です。特に女性の方が結婚して島を出て行かれたので、寂しくなった現在ですが反面結婚され、その子供さんが成長され、親子共々剣舞をされておられる方も幾組かございます。

剣舞は「むつかしいもの」ときめておられる様で、おさそいすると皆様しぶられますが基本となる「刀」の使い方をマスターすれば、あとはその流れについてきます。

又、詩をしっかり呑み込む事によって、その内容も理解出来、自ら舞の方もきまってまいります。他の舞踊などと何等変わらないとおもいます。

創始者の宗州氏は、本年1月86才の天寿を全うされ、会員一同寂しい思いをしましたが、宗州氏の御意志を継ぎ、村松を中心に一同頑張って行きたいと、思いを新たにしております。

西之表市詩吟同好会の発足と活動について

西之表市詩吟同好会　遠　藤　吉　助

戦後の混乱から漸く世の中も落ち着きを取り戻し始めた頃、平山武緝、森収入役、榎本宗秋、前田宗和、阿世知歯科医、名越南国食堂主人、遠藤吉助、町役場羽生課長、朝日新聞福田記者、村松三千年の各氏で、平山武緝先生を会長として詩吟同好会を結成したときは、昭和28年と記憶している。

当時同好の士は、自己流で各派入り乱れていた。年齢は45歳以上で私と村松君が一番若く、30歳前後で女性は一人もいなかった。

その後は、逐次会員も増加し剣舞師範の免許を持つ榎本宗秋氏指導のもと急速に剣舞部員が増し、若い人や女性も入門し盛会を極めて来たので、詩吟と剣舞の名称を「吟舞同好会」と改称し、数年後「詩吟」と「剣舞」は別れて今日に至っている。

当時は１・２回の例会で焼酎を酌み交わしながら、各会員宅を順番に会場にして、各派琵琶調あり、浪曲調あり、台湾朝鮮満州各地軍人の調子ありで、非常に楽しみであった。

詩吟同好会の話を聞き転勤族も加わり会員も増加したので、会場を西岸寺、旧万徳寺、旧東町公民館等を借用した。最盛期には、バス会社営業所長（元海軍大佐)、九州電力営業所長外社員等50名位に達した事もあった。

私達の活動が段々世間にも知られる様になり、部落の祭りや、結婚式等にも披露される様になった。一番印象に残っているのは、種子島実業高校講堂の落成式で、会員各自独吟をやり喝采を受けた事である。又、移動文化祭で伊関、安城、その他で私の詩吟で榎本宗秋氏が剣舞をやり大変喜ばれた事である。

昭和50年代中頃と思うが、熊毛地区文化祭が屋久島宮之浦であり、同好会から私一人、岳心流から二人、音楽舞踊等十数名が参加し、終了後島内一周した事は楽しい思い出である。現在は会員の市役所の上妻陽二郎君に会の世話役をお願いし文化祭、寿大学、高齢者学級、校区の集会等で参加し活動を続けている。

発足当時の会員の中には亡なられた方も居られるが、現在西之表文化協会の基礎を築かれた方たちの事を思い起し感無量である。西之表文化協会創立20周年記念にあたり協会の益々の発展を願うものである。

大関霧島関の横綱を願って私が詩を作りました。

霧島関

作詩　遠　藤　吉　助

春夏秋冬　　幾星霜
粉骨鍛練　　黒鋼如
奮斗努力　　横綱希
薩摩健児　　霧島関

チャーチル会と私

チャーチル会　尾　形　之　善

私がチャーチル会を知った当時の会長は、八板辰夫先生（現役の高校の先生）でした。八板先生は市民講座の講師もしておられました。先生にすすめられて絵画講座に入って勉強しましたが、講座の終了式の日、先生は私たちに絵画グループを作って自主的な勉強を続けることをすすめられました。そして、チャーチル会の１グループとして文化祭に参加するようになったのでした。思い起こせば、私は毎年稚拙な絵を臆面もなく出品してきたものです。

その後、先生が病気で亡くなられた時、それまで先生の代理で会の運営をまかせられていた私は、チャーチル会の存続について会員の方々に相談しました。

「絵画を生花のように一般家庭に普及させたい」という先生の考えに賛同していた私は、結局そのあとを引き継いだのですが、なにぶんにも浅学非才の身、絵の手ほどきをするなどということはできません。

初めのうちは会員同士で批評しあっていましたが、転勤等で一人減り二人減りしていくうちに指導者のいない例会はだんだんとしりすぼみになり、ついに数年前から行なわれなくなりました。最近は文化祭のみを目標に描いているというていたらくです。

24年前に産声をあげたチャーチル会もこの先どうなることか、危ぶまれる状況です。

どなたか、本会を再興させて下さいませんか。

写真は「春の絵画展」

書道の奨励普及を求めて

書道研究「一翠会」 中 島 貞 美

1．設立　昭和44年10月　　2．協会加入　昭和46年10月

3．沿革　昭和44年10月に千田隆司氏（現市選管書記長）・鎌田和好氏（現市社会教育課長）の熱意で新城にて誕生し、転入転出等を繰り返しながら面白く楽しい研究の場つくりに努め現在に至る。その間、師範合格者15名、昇格昇級することも大事ではあるが、全国版書道誌の中の写真版を目指し現在も優秀な成績で頼もしい限りである。

4．会則　(1)本会を書道研究「一翠会」と称します。　(2)本会は書道の研究及び之が奨励普及を目的とします。　(3)前記の目的を達するため　①毎週１回（土曜か日曜）を練習日とし書道に関する相互の研究を深めます。　②毎月自己の所属する書道会に競書(清書作品）を送り研究の糧とします。　③諸書道展（日展・毎日展・県展等）に応募し、また所属書道会の昇格認定試験を受験平素研究の力試しとします。　④文化協会主催の文化祭に参加し、研究発表の場とします。　(4)本会の入退会は自由とします。

5．受賞　昭和59年より平成２年まで三楽書道会（福島県）主催の全国展、特別団体賞他

6．一筆そえて　(1)全国には凡そ３００の書道会があると言われています。１社のみの研究では「井の中の蛙大海を知らず」でしょう。　(2)流派は、鳴鶴流は太く堂々と、翠軒流は細めで力強く、芳翠流は細めで始筆終筆等切れ味よく、がある。それぞれの長所を研究されるとよい。　(3)展覧会も日展・毎日展・朝日展・各団体展・県展・各書道会展等がありますので、出品や観賞等深めて研究の糧にしよう。　(4)和筆は筆管の直径が１cmのものを４号筆といい、小生の好みでもある。半紙に４～６字には３～４号筆がよい。和筆に数字が大になる程細い筆となる。中国製はその逆である。筆鋒の長さによって長鋒・中鋒・短鋒がある。紙の大小や質、字数や大小等研究、好みも含めて用意。

文化祭によせて

日本習字市役所支部 日 高 興一郎

私達日本習字市役所支部は結成してから、18年目になります。例年のごとく11月には文化祭に向けて展示会場に力を戯い合い、１年間の練習の成果を文化祭の中で展示することを会員皆が喜びとして感じております。

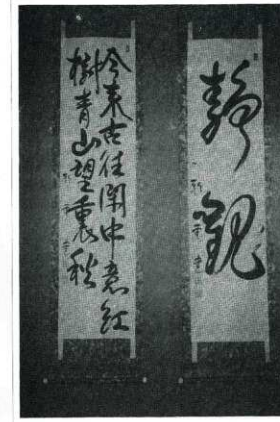
我が支部として、観峰宗師の名言であります「美しい文字を書くことは、美しい心になることぞ」この心を大事にしております。

昭和51年に文化協会に加入し、会員十数名余で互いに頑張り有級段取得者も出ております。

また、私も本支部の総指導者として、日本習字の名誉と責任において、頑張らせていただいております。お除さまで昭和63年には高段位を合格取得し、観峰宗師高弟として日夜書道に励んでいます。

今では、文字も印刷機からパソコン・コンピューターなど変わりつつありますが、時によっては自分で書くことも大事ではないかと思います。

書道は、常に「下手だから、練習するのだ」という気持ちが第一ではないかと思います。これを機会に私たちの支部に加入し、お互いに頑張ってみませんか？



わが街、わがクラブ

種子島写友会　子　島　　勤

会長、子島勤と会員11名で昭和59年４月に種子島写真同好会として発足、後に種子島写友会と改称しました。我が会は写真の普及と技術の向上を目指し、会員相互の親睦を深めると共に写真人口の拡大を計ることを目的とした、20～60歳代の写真愛好家たちの集まりです。題材は自由で主に風景、花、ネイチャー等で、各人の個性を生かしたものを撮影しています。

例会は年５～６回行い、会員の活動状況や意見交換を図り、会員相互の親睦を深めています。また、年２回の写友会展を当地の種子島開発総合センターで開いています。会員は市の文化祭や地区芸術祭に参加しているほか、全国のコンテストに入賞、入選するベテランもおり、会員の励みにもなっています。中途半端で写真をやめ、脱会する人もおりますが、「写真には定年がない」と、ある地方のクラブの会長さん（二科会会員）が言っておりました通り、好きでやっている以上やめるのも…と思います。写真にはまだ未知の世界が奥深くあると感じています。種子島は宇宙ロケット基地がある、花と緑と青い海のロマンの島です。この自然に恵まれた環境の中で会員一同頑張っております。

《活動状況》

昭和63年度市文化祭出展（開発センター）及び熊毛地区芸術祭出展（中種子町）
平成１年度市文化祭出展（開発センター）及び熊毛地区芸術祭出展（上屋久町）
平成２年度市文化祭出展（開発センター）及び熊毛地区芸術祭出展（南種子町）

《表彰》

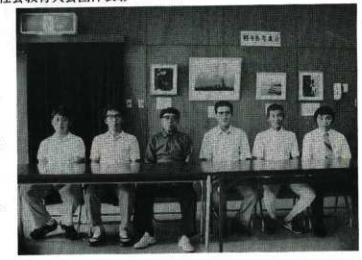
昭和63年２月西之表市社会教育大会団体表彰
平成１年２月熊毛地区社会教育大会団体表彰

《展示》

昭和61・62・63及び平成１・２・３年度定期写真展（開発センター）

昭和63年10月西之表市市制30周年記念事業写真展示

平成２年12月日本フォトコンテスト12月号に掲載される。



創立２０周年に想う

池坊「羽生社中」　羽　生　自月子

私達羽生社中は、昭和35年誕生以来、30年の歳月が夢のように過ぎましたが、顧みますと当時の文化祭は会場も現在の様な立派なものでなく、市役所内の中央公民館が会場にあてられたようです。今にして思えば懐かしさすら覚えます。

現在では、市民会館や開発総合センターが建築され、その上文化協会も組織化され、団体の加盟数も年々増加し、市民こぞっての文化的諸行事が、盛大に毎年の恒例行事と揺るがぬものにまで、定着発展しました。この間、私の心を過ぎるものは９年前の昭和57年文化祭を数日前にして、池坊華道の荒木ユタコ先生が永久の旅に立たれたことで御座います。息を引き取られるまで、文化祭のお花の出瓶のことを心配されて居られたので御座います。また、私が生涯忘れられない感動の思い出は昨年の文化祭で、身に余る思いがけない表彰状を戴いたことです。あの日の感動が皆さんへの感謝の気持ちと交錯しながら今も尚、私の胸の中でふつふつと燃え続けております。内祝いとして、今年の生け初めに１月15・16日の両日、東町のダスキン会社の広間を拝借して「池坊羽生社中生け初め展」と題して、細やかな華展を開催いたしました。立華から生花、自由花、と30余瓶のお花を見渡し30年の年月の思いに、ただ感慨深くあふれる涙をこらえることが出来ない程で御座いました。我が社中の歩みは、社中一人一人の歩みであり、我が社中の発展は、やがて西之表市の発展につながるものと、この時ほど私の気持ちを強くしたことは御座いませんでした。生き年生けるまで、華道一筋ただひたすらに歩み続けたいと念じております。

文化協会２０周年の思い出

池坊「牧瀬社中」　牧　瀬　く　み

文化協会20周年にあたり色々と思い出す事のみで、文化協会に加入した当時は市民会館の三階和室に生花の展示をした事を思い出します。その頃は展示場の数もわずかでしたが、その後だんだん展示する数も多くなり、また展示する場所も広い所になり、だいぶ賑やかになりました。最近は展示場所も開発総合センターに移りましたが、狭い部屋に展示するので二交代でなければ出来なくなりました。しかし、他の社中と協力し合って楽しくやっております。また、市民会館のホワイエ入口に花の家が御座います、そこに一ヵ月交代で社中が生けておりますので、市民会館に行かれたら花を見て頂きたいと思います。

ところで私は一昨年個人表彰を受けました。受賞するような働きもしていないのにと恥ずかしい思いをしました。また私個人の生花教室を毎週金・土曜日やっております。教室では珍しい花や色々な花について語り合いながら、みんなで楽しく生けております。これからも益々頑張って続けて行きたいと思っております。

榕城会のあゆみ

茶道表千家榕城会　阿世知　キ　ワ

設立年月日　　昭和46年12月
文化協会加入年月日　　昭和49年10月１日
会員数　　３７名

戦後、満州から引揚げ、帰島された中野出身の故池田ハツ子先生が昭和45年に会を起され榕城会と命名、茶道を伝授されました。故人となられてからはその子弟たちが先生の意志を継承し現在に至っております。

昭和50年４月より

教授者　　阿世知キワ・錨タツノ・中脇揖子・河内壽子

資格者　　羽嶋シャチ・上園ミヨ・中野スエ子・岡村智都子・大瀬文江・有馬伸子・伊藤博・池田和生・日高欣一郎が免許取得し、それぞれ社中を開き先生の子弟に、和・敬・清・寂の利久の侘茶の精神を体得するよう徹底した稽古をつけております。

昭和49年11月西之表市民文化祭より現在年に至るまで西之表市民会館の中に万端整った茶席を設けてお茶会を開催し、市民の皆さんに侘茶の一服を差し上げております。

毎年７月催される鉄砲祭りには、屋外に茶席を設け、一般市民や鉄砲祭りのためにお招きしたポルトガル駐在大使、その他のポルトガル本国からの来島者、国内外の観光客の皆様にもお抹茶の一服を差し上げております。

成人式にはそれをお祝いして茶席を設けたこともあります。また、平成２年11月に文化協会功労団体として表彰を受けました。

利久の時代に侘茶の心を普及され、４００年の流れの中に、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家の伝統の中から人間の心のふれ合いや、物を大切にし、礼節を知り、物に感謝する心を養い、お茶を学ぶことにより日常生活を豊かな楽しいものにしたいと会員一同努力精進しております。

煎茶道知足庵流について

知足庵流種子島支部　羽　嶋　シャチ

早いもので南派玉露方式知足庵流種子島支部が発足し、文化協会に入らせて頂いて文化祭に発表茶会を催してから、今回で１４回になります。（S 53・10）

当初表千家流の師池田初子先生の紹介で、知足庵流家元栫井高泉先生に入門、教授者となり、錨、中脇、羽嶋が各教室をもって稽古に励み、お茶の心と技を後進に指導し、共に勉強をしております。文化祭には志を同じくする３教室の仲間が一同に会し、一年間の勉強の成果を披露発表する事によって、一般に評価を問うものであります。

さて茶道とは、一口に言えば一碗のお茶を心をこめて煎れお客様に差し上げ、主客一体となって、一期一会のよろこびを分かちあうための作法であります。

その表現としてお道具も、ある物を季節や茶会の趣にあわせ、床かざり、掛け物、花、お菓子も吟味し、それぞれ古来よりの伝統を守りながら毎回心を配って準備するものです。

「和敬静寂」と禅の言葉があります。清く静かにそして和やかに終始することが、茶道のモットーとするところです。

「知足者富」とは足るを知るは富めり、又「知足不辱」とは足るを知れば辱められずと読みます。四百年以上も前に栄西禅師が中国から伝えられた茶を、上流文人武人の薬として珍重されたのが抹茶は千利休、煎茶は高遊外が文人武人の教養として高められ今日に至り、発展して来たものだと言います。

先人の残された文化とその精神を探求し、自分も学び後世に伝えていくのが私共の使命とおもいます。一人でも多くの人が文化祭茶会に入筵し、お仲間となり、現在失われつつある礼儀作法や知識を習得し、あとをついで下さるよう願ってやみません。

題目は曲仕込、（茶懼）、二重棚、三重棚、器局、盆仕組、提篭、三重提篭、比翼、献茶、献茶流れ、略盆、立礼等あり、毎回なるべく広く知って頂くために変えて発表しております。茶道、煎茶道は今や世界に通じる文化です。知足庵流茶会は毎年外国においても催され、沢山の方々の参加を得て成功しており、平成２年は中国、３年は韓国で開催の予定になっており、いよいよ茶道も国際化の時代となり、家元では外国のご婦人方も着物姿で勉強にいそしんでおります。

熊毛文学のあゆみ

熊毛文学　河　東　　瞭

昭和25年４月同人誌熊毛文学創刊、その後15年にして39年８月１００号を記念した。隔月刊という目標を越えた実績であった、又このとき８月９日百号記念短歌大会を開催した。50名からの出詠があり、水甕主幹加藤将之先生を迎えての大盛会であった。これひとえに編集人長谷草夢が終始一貫、世話役、まとめ役をつとめてきた賜であり、又草夢夫人の献身の賜であった。

更には熊毛文学の他に、種子島家年中行事、種子島碑文集（全２冊）、種子島家譜普及版（全６冊）を発行した。中でも碑文集、家譜とともに草夢の手による全部ガリ切りによる大事業であった。しかし、草夢のねばりも、熱意も、体力の消耗には敵すべくもなく、１００号の頃をもって限界に達しつつあったのである。

事実、40年度には１０２～１０６号と５冊刊行されているが、41年度には１０７～１０８号の２号のみ、そして42年８月刊行の１０９号をもって、一時休刊の止むなきに至った。

その後、編集人として河東が後を継いだが、熊毛文学の刊行は遅々として進まず、昭和62年度で１２４号まで漕ぎつけるに止っている。

今後は、一日も早く往年の刊行ペースを取戻し、会の隆盛を復活したい所存である。とともに、種々の事業にも取組んで行きたいところであるが、これまでの主な事業を列挙すると次のとおりである。

昭和55年８月種子島短歌大会
昭和57年西之表市短歌大会
昭和58年５月８日種子島短歌大会
昭和59年12月８日海音寺潮五郎氏詠める
　若狭姫歌碑除幕
昭和62年３月種子島短歌大会
昭和63年５月21日長谷草夢、笹川満尭両氏の歌碑除幕

〈西之表市文化協会　創立２０周年記念〉特別企画

座談会「２０年をふり返って」

この企画は、西之表市文化協会の創立当初から協会に加盟し、２０年間にわたり活動を続けてこられた団体の代表者を一同に会し、創立当時の思い出、苦労したことなどについて、いろいろ話し合っていただきました。

話題については、(1)協会創立当時について。(2)協会独立のきっかけについて。(3)活動してきた中での思い出、苦労話。(4)今後の協会について。が主な内容です。

この座談会の様子を、要点のみ集約し、ここに掲載するものです。

座談会の出席者は下記の方々です。（敬称略）

１．協会加盟２０年の団体関係者

河　東　　瞭	劇団「熊毛テアトロ」・熊毛文学会
羽　生　和　正	軽音楽同好会「エイトビート」・西之表市文化協会　事務局長
中　川　あい子	あかおぎ民踊研究会
村　松　秀　高	蘇州流「宗州剣舞会」
遠　藤　吉　助	西之表詩吟同好会
尾　形　之　善	チャーチル会
中　島　貞　美	書道研究「一翠会」・西之表市文化協会　会長

２．関係機関及び協会関係者

樋　口　兼　一	元社会教育課文化係
鎌　田　和　好	現社会教育課　課長
鮫　島　安　豊	前社会教育課社会教育係
平　山　武　章	前西之表市文化協会　会長
橋　川　節　子	現西之表市文化協会　副会長

３．司会者及び企画員（２０周年記念実行委員会編集委員）

奥　村　　学	司会・前社会教育課　主事
樋　口　兼　治	劇団「熊毛テアトロ」
永　山　博　章	軽音楽同好会「エイトビート」
榎　本　尚　子	レ・ヴィオレッテ
上　妻　茂　美	人形劇団「ゆびきり」

この座談会は、去る６月26日に一時間半にわたって行なわれました。

座談会「２０年をふり返って」

座談会が始まる前に、中島会長のあいさつ、事務局長の諸注意及び了承事項について説明があり、その後座談会が始まりました。

司　会：　みなさん、こんばんは！
みなさんから発言をいただきながら会を進めたいと思いますので、どうぞ方言も交えまして、しゃべっていただければ結構かと思います。
まず初めに“西之表市文化協会創立当初について”ですが、２０周年というと昭和46年に文化協会が設立されたことになります。
当時、協会の結成に至るまでの手順またはきっかけ、苦労話についてお伺いしたいと思いますが、そのころ、「文化係」を担当されておりました樋口さんにお聞きします。
協会が設立するまでの文化活動というものは、西之表市ではどのような状況だったんでしょうか。

樋　口：　資料では、協会の設立は昭和46年10月19日で、１３団体で結成しているようです。
そのきっかけは、当時社会教育課の今別府課長と、現在の社会教育課の鎌田課長で、結成の年に社会教育課の中に「文化係」というものが生れ、それから協会設立に取りかかったのですが、それ以前については、鎌田さんが詳しいのではないかと思います。

司　会：　ありがとうございます。そのころ、鎌田さんがおられたということですが、協会設立前の文化発表の機会というのは、どこかであったわけですか？

座談会の様子

鎌　田：　そのころ市内には色々な文化団体が多数あり、それぞれ活動していたのですが、今のような文化協会の組織がなかったものですから発表の機会も場もなく、市民会館が出来る前に組織を作ろうじゃないかということで呼びかけをしたところ、７団体ほど集まっていただき、語りあいをしました。
この時作ろうということになり、それから本腰を入れて協会設立の準備をしました。
それまでは、文化活動をしている方々に社会教育課から、“文化祭をしますが参加して頂けませんか！”とお願いして展示してもらった事を覚えています。展示場は、今の教育委員会の事務所で、当時電話局が移転して空き家でしたので、そこに生花とか短冊・書道などを飾ったことを覚えています。
部屋そのものが展示会の部屋ではないので作るのに大変苦労しまして、花の生け方も、準備にバタバタして遅くなり、夜２時ごろまでかかってしたんですよ。そして、もう一カ所は今財政課が入っている所で、当時は公民館でしたから、ここにも展示をしようということで、二ケ所展示場としてやったことを覚えています。

平　山：　ちょっといいですか。協会発足以前の、この文化について考えて見る必要があるのではないでしょうか。
終戦後、引き上げ者が入って来た。その人達が最初に演劇活動を初めた。「熊毛演劇研究会」といいましたね。元町長の最上さんの所で発足し、その火を消さないという形で続けてきて、これが「熊毛テアトロ」に引き継がれて……。一面では「熊毛文学会」というものが活躍をしたわけです。
そして、両方で種子島の文化・熊毛の文化というものの基礎を固めたと思うんです。ところで演劇は、会場がないので公民館とか学校の講堂を使うとか……、範囲が広かったんです。文化というものの考え方を定着させた功労者だと思うんですね。熊毛文学は短歌人口を増やしたんですね。いわゆる歌よみを育てたということになりますね。
そして、最初のこの母胎的な活動を今別府さんという事になりますね。そういった着想とひっぱり出し方、動かし方が彼はうまかったなぁ…！、という気がします。

司　会：　ありがとうございました。それでは、昭和46年に協会が設立されたわけですが、その後の文化祭は、どのようになったのですか。

樋　口：　市民会館が昭和47年にいよいよ落成ということで、文化の殿堂の「こけら落とし」をやりました。

司　会：　昭和47年の「こけら落とし」にはどのような団体が参加されたんですか。

河　東：　47年の市民会館の「こけら落とし」に参加したのはですね、舞台では演劇・音楽・舞踊・剣舞・詩吟・小型映画。展示のほうが、生花・ロウケツ染め・写真・文芸・絵画、こういった団体が参加しておりますね。

司　会：　文化祭ということで市民会館を使用したわけですが、そのころのお客さんの反応はいかがだったでしょうか。大入り満員だったんですか？

河　東：　大入り満員じゃったと思うな！

樋　口：　当時はこれが唯一の発表の場ですから、みなさんが以前から一生懸命練習したものを発表するという意気込みで、人も集まって大盛況ですね！

左より　中川さん　河東さん　中島さん

司　会：　中川さん、本格的な照明と音響で、ステージではいかがでしたか。

中　川：　そうですね。若さは若かったんですが、初めての舞台でしたので何かふるえて、かねての練習のように踊れなかったのは記憶しております。

司　会：　ありがとうございました。２０年の歴史は非常に長くて、記憶もとんでいるようです。それでは、協会設立の時点で１３団体だった訳ですが、その後の加入についてはいかがでしたか。

樋　口：　少ない団体でしたから、どういうふうに増やしたらいいのか、その方法を色色考えました。まず、「文化協会に入ると、市民会館を無料開放する！」というのが一つの魅力だったんです。

それで、お花とか舞踊の団体が多数入ってきまして、２０数団体になりました。昭和49年のころでしょうか。

司　会：　ありがとうございました。それでは、現在の市民文化祭は３日間ぐらい通してやっていて、県下でも例がないと思いますが、当時はどれくらいの規模でやっていたわけですか？

鎌　田：　芸能関係は１日だったんでしょうが、展示の方は、生花のもつのが３日間ぐらいですから、もつだけ置こう…！、ということで、その間撤去しないでおいた記憶があります。

司　会：　そうですか。文化祭の舞台発表に３日使うようになったのは、まだかなり後だったんですね。

鎌　田：　団体の数が増えてからだったんですよ。

司　会：　そうですか。それでは次にそれまで社会教育課内に文化協会の事務局を置いていたと思いますが、昭和52・53年のころから文化協会が独立し、別に事務局を構えるようになったようですが、そのきっかけは何だったのかということと、そのころの県下の文化協会の事務局の状況はどうだったのかですね、当時鮫島さんが担当されているようですが、いかがだったでしょう。

左より　平山さん　樋口さん
鎌田さん　鮫島さん

鮫　島：　当時「文化」という言葉になじみがない時代で、その時にいち早く西之表は「文化係」を置いたわけで、県下でも非常に注目している時でした。

私が52年に社会教育課にいた時、県の補助事業がありまして、補助金をもらい、それをさらに文化協会に補助するということが出来ない為、文化祭の出向補助金という形をとり、また、一方で事務局を教育委員会の中に置くと都合上いけないものですから、一応外に出すということにしました。

外に出すということは芽をつんでしまう事になるのではないかという心配がありましたが、うまく連携をとっておくようにし、この補助事業が終わったらまた、戻ってくればいいんじゃないか！、ということで、非常に大きな補助金で、はでな文化祭も出来て、調光器や音響装置なども購入できたわけです。

鎌　田：　この件については、話が少し遡るんですが！。当時私が社会教育の担当だったと思いますが、当時の協会役員に小村金男さんがいらっしゃったんです。（当時小村金男さんは、協会副会長でした。）

そのころ、行政は時間的に、予算的にも限度がありますので、これを大々的にやる為には事務局を別に移して、自分達で思う存分した方がいいんじゃないか……。という事で、小村さんに相談致しました。

その後、文化協会は社会教育課から独立したことを覚えています。

鮫　島：　どこの市町も文化協会は社会教育課の中にあるわけで、文化祭の時などは、社会教育課の職員がいろいろ準備をし、協会の人たちは演じるだけでいい……！、ただ展示品を持って行けばいい……！、というようなところがあったわけで、それをなるべく独立・自主的にするように育成するという考え方は教育委員会にはあったわけです。

しかし、専従職をおくには文化協会はそれほどリッチじゃありませんから、外に出してしまうとつぶれてしまうという心配があり、今でも県下では社会教育課が持っているというのが現状ですね。

そうすると、西之表は非常にそういう意味では先手でいったといいますか……！

樋　口：　事務局はもう全部、社会教育課の中で担当が……。

司　会：　やっていた……。そういうことで、現在でも社会教育課に事務局をおいて、職員が一生懸命文化祭の準備をしている所が沢山あるようです。西之表も独立させたものの、しばらくは社会教育課がお手伝いしていくわけですが、事務局が移ってから“何か変わったなぁ！”とか、不都合を感じたことはありませんでしたか？

河　東：　社会教育課に事務局がある時、協会の希望が行政をとおっていくので、スッといかないという面もあったです。独立しては……という話に小村さんが飛びついたわけや！

司　会：　鮫島さん、分けてしまってからですね。メリット、デメリット何か感じられましたか？

鮫　島：　53年ころまでは社会教育課も自然に手伝っていますが、完全に分離されたのは、昭和54年からのようです。そのとき、社会教育課の職員が役員に入ってこないということで少々ごたごたといいますか……！

やはり協会の人々にとってみれば、社会教育課の対応について、応援や手伝いの仕方をきびしく言われた時期がございます。

司　会：　それでは、話題を変えて、今まで活動されてきて、思い出や苦労したことなどあるかと思います。何でも結構ですのでお聞かせください。

村　松：　私が郵便局に入った時に榎本宗秋先生がいらっしゃいまして、引っ張られたという形でやってきましたが、生前、先生と一回けんかをしたことがあり、

「やめたい……！」と言ったところが、さんざん叱られまして、5～6年前先生の足が立たなくなってから、あとを引き受けたんです。

覚えているのは、中川さんたちが着替えている間、私たちが2つ3つしたことで、子供達の着せ方からすべて私一人でやらなければいけなかったもんで、苦労と言うよりは“しんどかったなぁ……！”。それだけです。

司　会：　中川さん。何か面白い話は……！。

中　川：　私達の発足は昭和45年で、大阪の万博会場に「鉄砲音頭」を中継放送したんです。それがきっかけで、種子島の民謡を掘り起こそう……！、と。

そのころは、どんな民謡があるのかわからない調子で！。

民謡といいますと若い方は歌わないでしょう！。だから年配の方にたのんでまわって！。「やーとせー」という歌がありますが、瀬口さんという（もう亡くなりました）おじさんに、二晩・三晩お願いに行きましたが、「おらー、上手に唄う時もあるばって、もう年をとってこら……！、声が枯れていけんときに明日の晩こいよ!!」と言わるもんで、翌日お願いに行ったら、「今日は、どうか“かぜ”をひいてなぁ……！」。そんなことが続きました。そしたらおばさんが、「せっかくわするとじゃから、まぁ…！、そがん言わんじい…おとうさん唄うて良かか悪かか私も加勢をするから唄うてまぁーせーば！」と言わって。

左より　尾形さん　松村さん　遠藤さん

テープを脇においてそうすれば間で、「エーン」と咳払いをして「こんたぁいけん！、はよう消やせ……！」。《笑い》

一番は結構よく歌ってるんですが、二番はこぶしが違ったり、間が違ったりで、それに踊りの振り付けをするので困っておりますが、その方を忍びながら今でもそのテープを使わせていただいております。

司　会：　ありがとうございました。20年の間には、様々なことがあるようですが、詩吟同好会の遠藤さんどうですか。

遠　藤：　「詩吟同好会」ちゅうのを一番先に作ったんですが、榎本宗秋さんが剣舞を教えだしまして、それから剣舞をいっしょに入れて「吟舞同好会」としたわけ

です。しばらく続いて、村松くんたちが入ってきてから、詩吟と剣舞が分かれたんだね。

とにかく今、詩吟同好会にもどって10人ほどいますが、若い人たちを入れて、これから盛んにして行きたいなあ……という希望を持っております。

司　会：　ありがとうございました。尾形さんいかがですか。

尾　形：　私が「チャーチル会」に入ったのは15年くらい前ですが、そのころ市民会館《例会》を月2回くらいやっていました。画いた物は次の《例会》まで市民会館に展示しておくという状態でしたが、選挙とかいろいろな会合があると、展示してあるのをはずさなくてはなりませんでした。

その後、パネルなど色々設置してもらったんですが、やはり同じでした。
また、倉庫に入れておいた作品が白アリにやられたことがありました。
現在、開発総合センターを使っていますが、人の出入りというのが市民会館の方がいいようですので、そういう所に常設の展示場があったらいいなぁ……、と思っています。

司　会：　ありがとうございました。次の話題に変えますが、長年活動を続けてこられると、かなり会員の方々の入れ替わりがあると思いますが、会員の確保や運営についてお聞かせ下さい。

河　東：　会員の確保は毎年のことで、入ったら翌年出ていく。ほいで、新しい俳優を捜すのに毎年苦労しとるようなわけですけどね。それに、毎年違うものをやるもんだから、どうしてもメンバーが不揃いになるし……。

あまり会員確保とかはやってないけど、けっこう誰かれ引っ張ってきて、なんとかその年のしのぎはやってるような状態ですけど！。

司　会：　「エイトビート」はですね、最初違った名前で入っていますが、その後メンバーの確保はいかがですか？

羽　生：　初めは「ザ・クロウズ」というエレキ・バンドで協会に入ったんですが、当時一番若いグループでした。活動としては、コンサートやダンス・パーティなどをやっていましたが、2～3年おきにメンバーが入れ替わるんです。

協会が独立したころ、現在の「エイトビート」に変えて、会員も12～13名のころがありましたが、結婚したりといろいろあり少しずつ減ってきて、現在に至っています。常に会員確保と後継者育成を考えているんですが、音楽の場合、技術を必要としますので、なかなか会員が見つかりませんね！

司　会：　もうちょっと時間があるようですね。それでは、今までいろんな発表をされて来て、ヒヤッとしたこと、大失敗したことなど、沢山あると思いますが、そういう思い出、エピソードについてお聞かせください。

中　川：　失敗はもうそれこそ沢山あります。たとえば、民謡というのは決まった音符がないものですから、歌い手次第になってくるんです。

そして、歌の途中が切れたりするとそれに合わせて踊っている私たちは次の場面で合わなくなったりするんです。歌のせいなんですが、民謡の場合は度々ありました。

羽　生：　演奏中の大失敗というのはないんですが、ちょっとしたミスはいつの舞台でもやってますね。それを如何にうまく、ごまかしていくか……。

中　島：　書道の場合もな、字を一字ぬかしとるわけや。せっかく良か字を書いとったのに、後で見たら“一字ぬけとった…！”と言うから、“よっから出せ！”というて出したら、全国版の写真にのっとるわけじゃから…。

僕たちの会も、44年に始めたけれど、十年間ぐらいは30名ばっかいでやったもんな！。

昔は書くとが楽しみじゃなくて焼酎飲みにくるのが楽しみやった……！。集まってきて、30分ばっかい書いた時にゃ…、あとは飲み方で…！。

左より　鮫島さん　羽生さん

遠　藤：　詩吟をやってうれしかったのは、実高の講堂の落成式に出演して、盛大な拍手を受けたことです。それから、いつの文化祭だったか忘れましたが、詩吟の番が近づいているのに本人がいなくなって、ほいで、こまってしまって……！。私はすませとったんだけど、穴をあけちゃいかんと思い、また出ていった記憶があります。

平　山：　実高の古い講堂で「寒鴨」を上演した時ですがね、鴨を打つ銃声がいるんですよ。これを録音したの……！。ところが本番で、停電になってね……！。あわてて紙の袋をふくらませて“パン”とやったんですよ。銃声は2回ですか。何とか繕ったんですよ。あのころは停電が多かったよ！。

司　会：　「テアトロ」はかなり長い時間かかったりして、いろんな失敗とか多かったんじゃないかと思うんですけど！。

河　東：　「夜の来訪者」というのをやった時ですが、私があまりセリフを覚えてなかったんですよ。その時、壁の後のプロンプを頼りにしてたんですが、この壁があるもんだから良く聞こえないんですね。
　行ったり来たりしているうちに時間がたってしまって、30分たらんようになって……！。それで、演出が30分前で打ち切って、いきなり終わりにもってきたんです。

司　会：　私も記憶があります。時間がなくて、途中とばして最後にいったんですね。しかし、観客は手をたたいていたんですけど!!。《笑い》
　まだまだ沢山の思い出やエピソードがあるようですが、ここで十数年間会長をされました平山さんに、思い出などお聞きしたいと思います。

平　山：　思い出というよりもね、実は辛いことは一つもないんですね。
　実際、スタッフがきれいにおぜん立てしてくれまして……、もう、有り難いことでした。

中　島：　南種子の担当者いわく、「西之表がうらやましか！」と言うわけです。
　西之表がする事・言う事、見たり聞いたりしとれば、もうたまらんというわけです。
　平山先生がおっしゃったように、やはり、自分たちはおぜん立てしていただいて……！。とくに、エイトビートの方々の力添えというものは、たいしたもんだと思っています。

平　山：　そうですな！。本当、すばらしいですよ！。

司　会：　ありがとうございました。残り時間も少なくなってきましたけど、次に今後の文化協会のあり方、行政に対しての希望などお聞かせくださいませんか。

中　島：　市役所の庁舎を作り直すと言ってますが、その中に“西之表市の文化はさすがじゃ！”といったものが、“いつでも展示できる！”“いつでも見れる！”そういった方向づけを要望しています。
　また、人と文化という事を考えた時に民謡などを伝承していく…、たとえば、中目と小牧には“侍おどり”がなくなり、洲之崎の“どすこいおどり”もそのうちなくなるんじゃないか！、と心配しております。

　そういう事で、自分たちの活動だけでなく、部落に伝わっているいろんな踊りや歌を伝承していくことが大事じゃないかと思ってます。また、親もですね、伝承していく義務があると思うんです。

司　会：　平山さん、何かございませんか。

平　山：　そうですね、民謡やわらべ唄、当然大事だと思いますね。こういったのには“あそび心”を忘れたらいけないと思うんです。“あそび心”というとなんとなく無責任な感じですが、実際、この“あそび心”がないと本当の文化は育たないと思うんです。
　“あそび心”があれば、中島さんの言われた事が継続して行くんじゃないか……！と、だから、文化協会も四角四面で考えるんじゃなくて、大いに“あそび心”を出してもらいたいなぁ！と、思いますね。

河　東：　一つ、宿題というか希望というか！。昔、現和方面で“芝居”などをしとったそうですが、昔の“芝居”をぜひどっかで復活してもらいたいなぁ……

遠　藤：　昔は各部落でありよったんですよ！。横山なんでぇ行くもんじゃったよ！。もう、学校なんだぁー、うっちぇーでいって!!。

平　山：　だからね、西之表の人は“あそび好き”なんですよ！。
　だから、やる喜びというものを知らない…、見る喜びだけで…！。

司　会：　ありがとうございました。本当に好きで“あそび心”がないと、この活動というのは、なかなか継続出来ない面があるようです。
　それでは次に、「行政の立場から見た今後の展望について」、鎌田さんいかがでしょうか。

左より　司会者 奥村さん　横川さん

鎌　田：　今の世の中は、物の豊かさという点で飽和状態だと思うんです。これからは“心に豊かさを求めていく時代”だと思います。
　このようなことを考えると、この文化活動が一番基本になると思います。今後、文化協会を中心に、

市民こぞって文化活動にたずさわっていく、という事が大事じゃないかと思います。

今後の文化協会の発展に期待しています。

鮫　島：　これから高齢化が進み、高齢者が増えてくると、協会にもこのような方々が入ってくるという事も考えなければならないし、また、高校生や子供たちが、協会の存在によって色々影響を受ける…、という事も考える必要があると思います。また、若い人たちが帰ってきても、遊ぶ場所がない……。

この文化協会の文化活動が、その遊ぶ場所になっていくのじゃないかと思うんです。

司　会：　ありがとうございました。それでは最後に、今まで数年にわたり事務局で頑張っています事務局長に、今後の希望などありましたら。

羽　生：　事務局らしきものを始めて、規約の改正などしながら10数年になりますが、団体の中には協力的、非協力的と色々あり大変苦労することもありましたが、最近では一部の団体を除けば非常に良くなってまいりました。

協会の活動というものは、事務局や役員・理事だけでやっていけるものでもないので、会員一人一人の協力が大事だと思うんです。

また、行政の方にお願いですが、協会に加盟してない団体が多数あるのは判っていますが、このような団体を協会に加入していただくよう指導をお願いしたいと思います。

それから、協会が独立してから現在まで、役員・理事集まって相談しながらやって来たわけですが、その間、行政の指導というものがほとんどなかったように思います。協会としても、県や市の考え方を反映した運営を考えていきたいと思いますので、今後、行政のご指導・ご協力をよろしくお願いします。

司　会：　ありがとうございました。あっという間に時間も過ぎまして、予定の時刻になろうとしています。いろんな話を出していただきまして、ありがとうございました。

県下でもトップ・レベルにありますこの西之表市文化協会が、今後ますます発展することを期待して、この座談会を終了したいと思います。

《拍手》

編集委員より一言

この「座談会」の中で、私達編集委員が一番聞きたかったことは、協会事務局の独立についてでした。他地区の協会ではいまだに社会教育課の中に事務局が存在しているのに、西之表においては十数年前に事務局を独立させたのは何故なのか！。私達編集委員の一つの疑問でした。

「座談会」では当時の関係者として、社会教育課の方々だけしか出席しておらず、当協会の関係者がいなかったこともあり、「座談会」の内容が一方的ではないかとの見解で、私達は後日、当時の協会関係者に話を伺い、その内容について検討しました。

双方の意見をまとめてみると、食い違う部分が多分にありましたが、当時の協会の動き、または社会教育課の動き等について、順を追って確かめてみました。

昭和51年から53年にかけて、協会長徳永幸彦さん・副会長小村金男さんが役員として協会の仕事をしていました。このころの協会事務局は、まだ社会教育課の職員が担当していたわけですが、当時の社会教育課長に富重　円さんがおられました。

この課長の時代に色々問題があったようですが、このころからすでに、協会独立の話が出ていたようです。

しかし、副会長は、“協会の独立は賛成だが、事務局まで持つということは、自らの活動に加え、事務局の仕事までするのは大変な負担だから、事務局というか、連絡先のような形で社会教育課が担当してほしい”と要望していたようです。

そのようなわけで、記念誌の「協会のあゆみ」でも解るように、昭和50年～52年のころは活動の資料が非常に少ないようです。

おそらく、事務局をどちらが担当するかで、もめていたことでしょう。

昭和54年になりますと、会長の徳永さんが退き、副会長の小村さんが会長になられましたが、小村さんは、同年８月に仕事の都合により転勤することになります。

同年９月には、当協会の文化祭に向けての「臨時総会」が開催されますが、その協議事項のなかで、「会則」が改正されることになります。

この「会則改正」は、協会役員の中の常任理事を廃止することが目的であったようです。常任理事として、常に社会教育課の課長が入っていましたが、昭和54年９月より、役員は協会加盟代表者だけになりました。

これは、協会の役員人事の中より常任理事を廃止すれば、行政の立場上、間接的には関わりがあっても、直接的には関わりが薄くなることを意味し、当然協会としては事務局を持たざるを得なくなります。常任理事廃止後の会長・副会長の方々は大変苦労したのではないかと思われます。

以上のような動きの中で、協会が独立していったのではないか！、と私達、編集委員は判断致しましたが、では、何故独立しなければならなかったのか！。上記の動きの中に隠されているようにも思われますが、その真実は解りません。

舞うトンビ下界にひとみこらす時あからさまなる頭の天辺　宮園　ムツエ

残照はレモンのごとき輝きをわが住む丘にしまし止めり　吉原　三保子

御歳暮を持ちて訪えば他の店の肥料袋の積まれておりぬ　川崎　正子

庭隅の桃の枯木の下蔭に朱のアマリリス群がりて咲く　榎本　アヤ

やうやくに雨上りたる山峡を行けばなごりの雫が落つる　大木田　松子

バンブーフルートの音色透りて朝茜呼びつつ明日への歴史流るる　田上　貞子

ひとしきり鳴きつづけたる蟬の声はたと止みたり季節の移ろい　河東　瞭

島人になれるその日を待ちわびつつ「ようかい」の歌口ずさむ秋　桑原　房子

〈短　歌〉

つぎの短歌は熊毛文学会の方々からご投稿をいただいたものです

炎天下立ちてゆらげる向日葵は汝が新盆に向うときめき　田上　満子

美智子紀のうたひたまひし合歓の花ほのかに紅のほころびている　徳永　スミ

山並の影を写して静かなるダムの水面に鴨の遊べり　日笠山　エチ子

捨猫の小さき命だき帰るわが生れ日の一つ良きこと　有留　政江

群れ咲けるあやめ一本手に折りてしたたる水にふと命見つ　笹川　道子

ことば無き子と来て遊ぶ公園の歌碑ひそやかに松風の中　下村　タミ子

忙しく幾日の過ぎて燈籠を納むる朝法師蟬の声　鮫島　とし

秋あかね飛びかう島の夕暮れにもの寂しげな風鈴の音　沖吉　富寛

《随　想》

趣味の功徳

平山武章

働き過ぎ日本が、今ほど見直されたことはない。いよいよ週休二日制も実現しそうだし就労時間の短縮もそうである。

ところが、余暇が増えて喜ぶのは婦人の方で、男の方は時間を持て余す傾向だというから面白い。

男の余暇利用がごろ寝というアンケート調査の結果の示すところは、男は何々戦士といわれる、勇ましくも侘びしい存在なのであろうか。葉隠れをもじって「男とは眠ることと見つけたり」では少し曲がなき過ぎそう。

だが、ゆとりを持てと言われても戸惑いそうだ。“ゆとり”を広辞苑で見ると《余裕があること。窮屈でないこと。くつろぎ》と解釈してある。

この余裕があるを、片目で金銭面だけ見ても金余り時代の日本とは言え、余裕綽々の家計簿の家庭がそう沢山あるわけではない。

子供を生み、独り立ちさせるまでは、今では20年という年数が要り、莫大な経費を伴なう。この親離れ子離れの難しい御時世では、子供も生むに生めない。そして人手不足は限度をこえているときく。

これでは特に男子社会がぎくしゃくするのも当然だし、ストレスの解消など論外といえる。こうした社会に、ゆとりと言わぬまでも、うるおいを醸す婦人の働きは重要だ。

ところで、後白河帝の撰の「梁塵秘抄」に

“遊びせんとや生まれけん、たはむれせんとや生まれけん
遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそゆるがれる。”

の歌詞がある。

子供は遊びによって身心ともに健やかに育つことは、誰もが知り尽くしていながら、喉もと過ぎて忘れてしまっているのがこの遊び心である。

私たちは遊戯の中で社会性を悟り、おのずから隣人愛を培った。今の精神医学では、遊戯療法さえ重視されている程である。

遊び、それは一見ささやかに見えても、女の力が、地方の文化活動を支えていると考える。ここで言う文化は、片眼ではあるが、芸術、芸能の粋内でということにして。

西之表市文化協会が発足20周年を迎えた。何といっても素晴らしいことであり、めでたさを実感する次第。そしてこれを支え、実質的な活動の母胎は、文字どおり婦人であった。

柳田国男の「妹の力」を敷衍すれば、昔の女は歌も踊りも狀し目で人前に立った。労働歌の場合でも。

しかし今の婦人は、目を見開いて前を見て歌う、踊る。

茶を点て、花を生け、物を造り、詩歌を作り、そして腕を揮う。

趣味がその人その人に、洒落と時をもたらしてくれる。これがほんとうのゆとりであろうし、それが本業になれば、それはそれで三昧悟道の境地。

あるいは遊び半分といえば、性根がはいってないと、うとまれそうだが、これまた、効果あらたかなゆとりである。

趣味を同じくする集いは楽しい。そして洒落っ気がその趣味を高める。

趣味に誇りを持つ人の目は輝く。

会員のみなさん、遊び心をひろめ、集いの輪を強め拡げよう。

《随　想》

提　　言

西　　金　男

以前「またテアトロか！」と、軽視した口調で話かけてくれた友人が、十数年たって帰郷してみると、「テアトロが待っているな！」と、好意に満ちた表情で語りかけてくれた。ようやく演劇を理解してくれたよう…、演劇への意欲が熱える今日このごろです。

その劇団「熊毛テアトロ」が順調な歩みを続け、昭和54年県芸術文化奨励賞を受賞してさらに磨きをかけようかというとき、後ろ髪を引かれる思いで故郷を出たのが同年八月。勤務先の西日本新聞社の転勤命令を受けて、残暑厳しい中、西之表港の船上の人となった。「これから、初めての土地、未知の世界が待ち受けている」と思うと、それまで二十余年の種子島生活、とくに文化活動、演劇活動が大型台風のように頭のなかを駆け巡った。

テアトロの創生期、昭和30年代、当時市民会館がなかったためテアトロは、今の西町公民館の前身、西町劇場をホームグラウンドにして、市民文化祭などと銘打って、数々の演劇を上演した。その西町劇場はすでに姿を消しているが、地方の町ではほとんど見られない芝居小屋で、貴重な文化財であった。

規模こそ大きいが、熊本県山鹿市に国の文化財として保存され、著名な歌舞伎俳優らに活用され、観光に大きく貢献している「八千代座」を思うと、西町劇場をなんとか残せなかったものかと残念でならない。

ところで、文化は限りなく幅広く、生活のすべてといっても過言ではない。

豊かな心を養い、美しさや感動を呼び、やる気を起こさせる。ややもすれば、文化は産業と違って生産性がなく金にならないとして、二の次に置かれがちだが決してそうではない、むしろ逆。産業を推進する人間の心を作りだす原動力であろう。

隣の熊本県では、かって新聞記者出身の細川護熙前知事（二期で平成２年勇退）が、文化の振興を県政の最重点政策として取り上げた。

まず、県立劇場館長に元ＮＨＫアナウンサーの鈴木健二氏を迎えた。鈴木氏は、各地の要望による講演の報酬を文化振興基金として積み立て、県内の新旧芸能を県立劇場に招いて上演させ、地域芸能の掘り起こしに尽くした。

私の勤務先であった天草の文化も招かれて、ミュージカル「天草物語」を上演、私も縁あって出演した。

また、細川知事は、４年前から会場を各地域持ち回りで県民文化祭を開催。今年は４回目で、昨年の天草に続いて阿蘇で開く計画で、県は活気に満ちている。

私は新聞記者として、鹿児島県出水、熊本県天草を渡り歩き、定年を迎えて帰郷したが、この間貴重な文化に巡り合った。

出水では三月、夫の鶴が北のシベリアへ帰るため、仲間の鶴といっしょに出水の休遊地

を飛び立ったものの、ケガのため地上にただ一羽残った妻の鶴を見て地上に降り、妻の鶴とただ二羽、北帰行をやめて残るという美しい鶴の夫婦愛や、薩摩藩の北の守りに当たった武家の屋敷、島原天草の乱、隠れキリシタンなど歴史や風光明美な自然を中心とした観光など、いろんな文化に接し、貴重な勉強をした。

故郷種子島は、前地に劣らない歴史文化に、なによりも汚されていない自然文化に恵まれ、夢が広がる。

幸い、西之表市では多くの文化団体が活躍中。市民文化祭のほかに地方文化祭や地方音楽祭など、他市町にはあまりみられない活躍を見せている。

特に注目したいのは、下西小の演劇観賞。数年前から毎年秋「熊毛テアトロ」の演劇を全校児童が観賞していること。

天草でも天草西高校が毎年秋、演劇発表会を開いて、全学年全クラスが演劇を上演するユニークな演劇活動を続け、小規模ながら豊かで活気ある校風づくりに努めている。

今年は、西之表市文化協会創立20周年のよい節目の年、これを機会に一段の飛躍を祈りたいもの。同協会会員は、アマチュアといっても芸はプロ並みである。

最後に、私がいつも念頭にあることを述べたい。

“良い舞台、良い作品をつくれば客は喜び、次に期待する。
逆に手を抜くと客は見に来なくなること。”

編　集　後　記

昨年から「２０周年準備委員会」を設置し､「記念事業」について話し合ってきましたが、その一つに「記念誌」を発行しようということになりました。

「記念誌」を発行するとなれば、編集委員が必要になるとのことで、結局企画員が担当することになりました。この企画員の面々、本など発行した経験もなく、せいぜい小学校時代の学級新聞くらいがいいところで、まったくの手探り状態でした。

今年、平成３年になってから「準備委員会」が「実行委員会」に変更され、実際に動きはじめることになりましたが、初めのうちは何から手をつけたらいいのか見当がつかず、ただ会の回数が増えるだけでした。

しかし、あいさつの原稿や、各団体の原稿が提出されると、なんとか本にしないといけないと思い、原稿の編集や修正に毎夜のように集まり会議を重ね、やっと発行するはこびとなりました。

「記念誌」の中で「特別座談会」が掲載されていますが、この編集に１ケ月を費やしました。というのも、「座談会」の模様を録音し、そのテープから各人の言葉を聞き取り、文章にしたあと、編集を数回重ねたのです。

一通りの編集がすんでから改めて見直すと、これも入れたほうが良かったとか、あれはどうかな！と思うことしきりですが、何分初めての「記念誌」発行ということで、不行届きもあることと思います。何とぞご寛怒のほどをお願い致します。

編集委員　一　同

西之表市文化協会
「創立２０周年記念誌」　編集委員

羽生和正　榎本尚子
樋口兼治　上妻茂美
永山博章

西之表市文化協会
創立２０周年記念誌

平成３年10月19日　発行
発行者　中島貞美
発行所　西之表市文化協会
〒891-31　西之表市西町7080番地
事務局　羽生和正方
ＴＥＬ (09972) 2-1338
印刷所　㈲もっぷる舎印刷
〒891-31　西之表市西之表7764番地
ＴＥＬ (09972) 3-1689

西之表市文化協会「創立２０周年」を記念し、各種事業計画を実施するにあたり、各商店街の皆様、並びに一般の方々の広告・協賛をいただきました。

ご協力誠にありがとうございました。ここに、厚く御礼申し上げます。

西之表市文化協会「創立２０周年」記念　広告・協賛者一覧

(順不同)

広告・協賛者名	住　所	電　話
赤尾木ゼミナール	西之表市　中目	2-4388
吾妻寿司	東町	2-0339
綾木流「芙草之会」	美浜町	3-0959
有馬石油	西町	2-0121
伊藤自動車	西之表14408	2-0222
一正堂有限会社	東町１	2-0251
一条印刷	西之表7460	2-1405
エスパー電機	天神町5-11	2-1229
風扇流「希風会」	鴨女町82	2-0134
おかだ菓子店	東町	2-0228
表千家楷城会	西之表7169	2-1494
きたる葬祭	西町32	3-1246
ギンザ薬局	西町	2-0140
岳心流詩吟学院種子島支部	下西　池野	3-2589
岳心流詩吟学院西之表教室	下西　池野	3-2589
国上屋	西町	2-1246
古賀商店	西町	2-1414
株式会社古賀商会	西町41	2-1335
古賀写真館	東町	2-0855
ことぶきや	西町7080	2-1338
小料理鈴鹿	西町	3-2020
酒井菓子店	西町	2-0167
酒井弥商店	田屋敷	2-1616
逆瀬川書店	東町119	2-1537
三栄石油商会	天神町	2-1251
サンシード	天神町3-12	3-4111
SunPicco	東町１	3-0003
しおざき釣具	松崎	3-0306
シティホテル　あらき	西町78	2-1555
書道研究「一翠会」	西之表7640-20	3-0120
書道研究「楷城同好会」	池野（遠藤秀子）	3-1309
新生社印刷	西之表16516	2-0476
新星薬局	東町	2-1261

広告・協賛者名	住所	電話
スーパー わかさ	西之表市 美浜町6592	2-0357
スナック ルフラン	西町	3-0212
瀬口陶房	住吉 形之山	3-8130
ソエニタ電気	野首	3-2906
大洋管財株式会社	西之表7515-3	3-3618
ヘアーサロン 田添	東町	2-0191
たつみや	東町	2-0863
ダイオ電器	下西 上石寺	2-1174
東京堂	西町	2-2774
直寿司	下西 川迎	3-3711
ナカノ鈑金塗装	下西 上石寺	2-0321
中村商店	西町	2-1258
長唄「杵佳会」	西之表7686-63	2-0267
南国土産品ヒゲさんの店	西町	3-2428
西村めがね店	東町52	3-2655
野口産業	鴨女町	2-1577
はしもと美容室	納曽	2-0361
原田シロアリ	鴨女町	2-1191
久松タイヤ	洲之崎	3-0576
ひまわり美容室	西町	3-0797
日高木工所	松畠 桜ケ丘6443-7	2-1300
ヒロハマ菓子店	鴨女町201-1	2-0419
ファッションプラザ スエコ	鴨女町78	2-1586
ファミリーショップ サムズ	西町5	3-4649
フラワーショップ 花房	西町7082	3-1187
Fuji カメラ・ドリーム	天神町	3-1116
福井クリーニング	西町	2-0669
藤間流「亜希藤会」	西之表7686-63	2-0267
平和モータース	西之表14415-11	2-1171
ホワイトハウス	西町41	2-1353
ポーラ化粧品種子島営業所	西之表10233	2-0687
まるこう	東町143	2-0445
丸尾自動車部品株式会社	東町	2-0713
丸山水産	西町44	2-1281
三喜流「藤美会」	下西 澄泊	3-0372
明巧堂	西町	2-1192
理容 とうよう	東町7050	2-1664
ロマン美容室	西町	2-0062
和田書店	東町	2-1325

広告・協賛者名	住所	電話
阿世知 キワ	西之表市 西之表7169	2-1494
上妻静子	西之表7232	3-4691
土屋智裕	中目 本源寺	2-0569
鶴田武雄	西之表8973-20	2-1272
羽生自月子	東町106	2-1023
日高食堂	西町	2-0213
平瀬久子		

学習塾 英・数…中学1・2・3年生
英・算・国…小学 5・6年生

赤尾木ゼミナール

西之表市中目（本源寺裏）
TEL 2-4388

寿司と定食の店

吾妻寿し

西之表市東町
TEL 2-0339

綾木流「芙草之会」種子島支部

西之表市美浜町 ③0959
代表 原田 一

綾木流芙草之舞踊教室

鹿児島市田上町3631-58 0992 (8)3055
種子島教室 西之表市松畠(榎本方) 0997(2)1390
屋久島教室 上屋久町楠川1045 0997(2)1138

乗り物の総合商社

自動車・単車・自転車の販売整備
福岡陸運局長指定・民間車検工場

有限会社 イトウ

〒891-31

本社：四輪
西之表市西之表14408
TEL 09972 2-0222
FAX 09972 2-0226

鴨女展示センター
西之表市鴨女町93
TEL 09972 2-0813

西町二輪店
西之表市西町7086
TEL 09972 2-1511

モービル石油㈱代理店
住友海上火災保険㈱代理店
石油類・プロパン・器具配管

有馬石油店

西之表市西町 ☎2-0121

エスパー電機

西之表市天神町5-11
代表 谷森正章
TEL (代) 2-1229
FAX 3-4830

凰扇流 希風会

代表 小倉ツヨミ
西之表市鴨女町82
TEL 09972 ②0134

きたる葬祭
フラワーショップ **きたる**

西之表市西町 TEL (代)③1246
TEL ③2529 FAX ③1246
夜間 TEL ③0148

茶道 表千家流 榕城会

代表 阿世知キワ
西之表市西之表7169
TEL ②1494

総合衣料・マルケイスポーツ

㊫ 国上屋

西之表市西町 TEL 2-1246
FAX 2-1247

薬・漢方薬・花王ソフィーナ

ギンザ薬局

西之表市西町
TEL 2-0140

日本吟道学園
岳心流詩吟学院
種子島支部

～ 詩吟・民謡・歌謡教室 ～
師範 川上里岳
西之表市下西池野 ☎ ③2589

プロパンガス・ガス器具一切

株式会社 古賀商会

代表取締役 榎本清治

西之表市西町41番地
TEL 2-1335

和洋酒類・たばこ

ことぶきや

午後11時まで営業
(配達 午後8時まで)
西之表市西町7080
TEL 2-1338

酒類・たばこ・塩・米・食料品
配達迅速

(有) 古賀商店

西町 TEL (代) 2-1414
2-1415

小料理

鈴鹿

西之表市西町
TEL (代) 3-2020
3-1839

焼き立てのパン・和洋菓子の店

酒井屋

西町 種子高下 2-0167
西町 にぎわい通り 2-1167

書籍・文具・教材・事務用品
事務機・結納品

逆瀬川書店

東町119 TEL 2-1537
FAX 3-1063

石油類・ガス・ガス器具
住宅設備機器販売

(有)三栄石油商会

阿世知 豆富(のぶよし)
天神町 TEL (代) ②1251 FAX ②1252
フリーダイアル 0120-381251

皆様の街
いい品、お安く、いい暮らし
皆様の街 ショッピングセンター
サンシード

西之表市天神町3-12
事務局専用 TEL 3-4111
お買物情報 TEL 3-3333
案内所 TEL 0120-38411

Specialty
Food Shop
SunPicco
(サンピコ)
〈営業時間〉AM9:00～PM9:00
西之表市東町1番地
TEL ③0003 FAX ③0900

朝5時より…
しおざき釣具
西之表市松島
TEL 3-0306

総合結婚式場
日観連
シティホテル あらき
大小宴会・会議場
西之表市西町78
TEL 09972 2-1555(代)
FAX 09972 2-0019

医薬品・資生堂・理科器具
健康食品・血液センター
(合) 新星薬局
東町本店 TEL 2-1261
鴨女町薬局 TEL 2-0449

ヒューマン印刷に徹する
有限会社 種子島新生社印刷
西之表市西之表16516
TEL 2-0476
FAX 2-0721

スナック
ルフラン
西之表市西町
TEL 3-0212

酒・たばこ・食料品
レンタルビデオ
(会員募集中 会費100円)
スーパー わかさ
西之表市美浜町6592
TEL 09972 2-0357

瀬口陶房
河内窯
西之表市住吉形之山 ☎③8130
(自宅)
西之表市西之表7189-4
瀬口義盛 ☎②1164

書道研究「一翠会」
赤尾木書道研究会
・毎週 土曜または日曜の一回
・規約 あり
代表者 中島貞美
西之表7640-20 ☎③0120

書道研究「榕城同好会」
・毎月 第2・第4の水曜日
午前 10:00～12:00
・西之表市民会館 第1・2会議室
代表者 遠藤秀子
西之表市下西池野
TEL 3-1309

TOSHIBA
家庭電化製品販売修理
住宅設備機器・水道工事・電話工事
ソエタニ電気
西之表市野首 TEL 3-2906
FAX 3-2906

ゾートスサロン・婚礼・着付・貸衣裳
たつみ美容院☎3 0189 2F

資生堂・マックス・コーセー・クロロフィル
たつみや☎2 0863 1F

美顔コーナー・サウナ
エステティックサロン☎2 0863 B1

限りなく未来を拓く…大洋企業グループ
大洋管財株式会社
代表取締役 児玉忍
西之表市西之表7515番地 TEL (09972) 3-3618
大洋鉱業開発株式会社 南種子町西之3457番地 ☎⑥6341
五陵建設株式会社 南種子町中之上2615番地1 ☎③4523
種子島リゾート開発株式会社 西之表市西之表7515番地3 ☎3618
有限会社大洋資材 西之表市西之表7515番地3 ③4326 取締役社長 平川恵
東邦緑化株式会社 中種子町野間16378番地1 ☎⑦2566 取締役社長 井元洋一
(年内発足)
● 種子島海洋開発株式会社
● 株式会社種子島資源開発研究所

紙・文具・事務用品・雑貨
美津濃スポーツ用品
東京堂
西之表市西町 TEL 2-2774
2-0387
2-0834

ダイオ電器
ナショナルショップ店
電化製品販売・修理
西之表市上石寺(自動車学校前)
TEL 2-1174

安くて新鮮なネタで
皆様に奉仕！
直　寿　司
寿司・定食・丼物・やきとり
いろいろ
西之表市川迎
TEL 3-3711

設備と信頼のショップ
㈲ナカノ鈑金塗装
西之表市上石寺
TEL (代) 2-0321
夜 2-0325

祝　西之表市文化協会創立２０周年
長　唄「杵佳会」
藤間流「亜希藤会」
代表　神　村　加奈子 ☎ ②0267
稽古場　西之表市西之表7586-63
（豊山）

木　材
野　口　産　業
西之表市鴨女町
TEL (代) 2-1577
野　口　末　吉

信用とサービス
タイヤ安全整備指定工場
タイヤ電装 久松
代表　久　松　宗　成
西之表市洲之崎 ☎ 3-0576
3-0539

原田シロアリ
民謡三味線教室
〔睦　会〕
代表者　原　田　保　教
西之表市鴨女町
TEL 2-1191

建具・家具　制作販売
アルミサッシ
（一級技能士の店）
日　高　木　工　所
西之表市桜ケ丘6443-7
TEL 2-1300

婚礼・着付け
ベルジュバンス
ひまわり美容室
西町　TEL 3-0797
自宅　3-1001

和洋生菓子
ヒロハマ菓子
鴨女町201-1
TEL 2-0419

“よろこぶ顔がみたいな…”
ファミリーショップ
サ　ム　ズ
西之表市西町５番地
TEL 3-4649
みんな　よろしく

ふれあいギフト　カタログ販売
総合衣料・おしゃれ用品
ファッションプラザスエコ
呉服展示会（年４回）
西之表市鴨女町78
TEL (代) 2-1586

いい出会い、いい写真
フジカメラ
みんな　いいいろ
TEL 3-1116
西之表市天神町
ドリーム
ばしょ：てんじんちょう
でんわ：3-1157
© SANRIO

フラワーショップ
花　房
西之表市西町7082　久耀ビル１F
TEL 3-1187
（FAX兼用）

全日本みけし洗い研精会会員
福井クリーニング
西町本店　☎ 2-0669
松島支店　☎ 3-1457
鴨女支店　☎ 3-2627
フリーダイヤル ☎ 0120-119290

日本舞踊教室「三喜流」
（キングレコード専属）
藤　美　会
代表　三　喜　藤　美
稽古場：西之表市湊泊　川畑美智子
TEL 3-0372

民　間　車　検　工　場
各種自動車・新車・中古車販売
㈲平和モータース
平和ドライブクラブ
西之表14415-11
TEL ②1171　FAX ③2201

健康自然食品・薬
ハリウッド化粧品
(有)ホワイトハウス
代表取締役　榎本清治
西之表市西町41番地
TEL **2-1353**

喜ばれることに喜びを!!
すぐれた商品を、一人でも多くの
お客様にお届けします。
ポーラ化粧品
種子島営業所
西之表市西之表10233
TEL **2-0687**
《ゆりの会もご利用ください》

各種自動車部品
南九州中古部品流通センター
丸尾自動車部品(株)
東　町 TEL (代) **2-0713**
夜　間 **2-1534**
中古車部品 **3-1612**
FAX **3-4872**

綜合衣料 ㊐ **まるこう**
代表者　米満幸孝
西之表市東町143
TEL **2-0445**

丸山㊀水産(有)
本社：西町44 ☎ **2-1281**
総合土産品店
丸山土産品センター
西町7-1 ☎ **3-0220**

ベルジュバンス専門店
婚礼着付
ロマン美容室
西町 ☎ **2-0062**
(酒井屋2F) 自宅 **3-1711**

古賀写真館
種子島ビデオプロセンター
本　店 ☎ **2-0855**
中種子店 ☎ **7-0433**

ヘアーサロン
たぞえ
西之表市東町
TEL **2-0191**